

団塊おやじのがん闘病記

～大腸癌ステージ b (ほとんど治癒する見込みなし

・・岩波新書「胃がんと大腸がん」)からの生還

大腸癌ステージ b (殆ど治癒する見込みなし・・岩波新書「胃がんと大腸がん」)で術後4年経過、「完治」と言われる術後5年まで1年、大分気が楽になりました。余りピンピンしているものだから、干場の癌はガンモドキだとか言われたりしますが、飽くまでも確率の問題であるということです。定期検査は欠かさず、ストレスレスの生活を心掛け、免疫力の向上に努めたいと思います。アマダイ通信の読者から、時にアドバイスを求められ、参考になるとか、元気づけられるという方もいらっしゃいます。そんな方々のために、アマダイ通信の闘病記?部分だけを抜き出し、ホームページにぶら下げました。

アマダイ通信NO.36

(Tile fish network letter)

03年花季

知人・友人各位

昨秋、小平市報を見て、久しぶりに消化器癌検診に応募。胃のバリウム検査はOKも、便潜血検査が陽性、内視鏡による大腸癌精密検査が必要との通知。快眠・快食・快便の飲んだくれ、癌なら肝臓と決め込み、家も職場もウオシュレットで何で尻から出血かと。2月の末にようやく病院へ。幅5センチ、腸を半周する腫瘍を見せられる。エコーも撮り幸い肝臓への転移はなし。スケジュールの切れる3月2週に入院、切腹することに。

癌を告知されても昨日の☛と今日の☛に違いなし。たっぷり脂がのって色艶もいい。腹を割かれて干物になるまではと、夜毎の“宴会”に週末の日帰りスキー。メスが入って“晴れて”病人。花爛漫の季節とて夢、☛の真似はするまじ。

“死に神”に2度取り付かれ

20代は“共産主義”の旗の下に全世界を獲得せんと無謀な大志を抱き奔走、30代は社会の隅に沈潜し満身の創痍を癒す。40代になってようやく“市民社会”に復帰、サラリーマンを始めた☛。ここ十年ほどは風邪を引いたこともない“健康優良爺々”。だが十年ほど前から、この時期になると鼻がグジュグジュ鼻水タラタラ、目の周りが痒く、時に大きなくしゃみの出る花粉症に悩まされる。秋田杉の故郷で育って杉花粉で悩まされるのは免疫力の低下か。幅5センチ、腸を半周するまでに腫瘍を育てる年数を思うと、市民社会に復帰してからの年数とほぼ同じか。何のことはない、☛にとっては市民社会そのものが堪え難いストレス。それを酒で紛らわし、肝臓で吸収しようとした、単なる社会不適應症?

もっとも死神に取り憑かれたのはこれが最初ではない。癌が死神と恐られる半世紀前、

ストレプトマイシンが華々しく登場する前に猛威を振るったのが結核。正岡子規が、芥川竜之介が、堀辰夫が、肺結核を病んで志半ばで逝った碩学の何と多いことか。しかし、ストマイが発見されても高価で、貧しい戦後の日本で誰もが手に入れられる訳ではなかった。エイズの“特效薬”がアフリカの人々の手に届かないのと同じ構図。この時代に●も一度死神の微笑を受ける。同時期に病んだ従兄弟の一人は高校生で若い命を落すが、就学前の●は死神の微笑に惑わされるほど、大人ではなかった？

肺には未だ石灰が沈着するが、人生の曙の●は野山を走り、海を泳ぐ間に小学校入学前に自然治癒、結核菌を体内から追放、一度は死神との戦いに勝利する。その後手術は扁桃腺だけ。それも村の診療所で血を吐いて悶絶、半分しか取れず。時々“熱源”になるが、今は腫れることもなく、この10年以上風邪も引かないが、人生の黄昏で今一度、死神に出会う。

お尻にバイブレーター？

サラリーマンを辞めると定期健診の機会が少なくなる。酒飲みだがストレスには強いから、肝臓や腎臓は別にして胃腸は大丈夫。それでもたまたま市報が目に入って、消化器癌の検診を申込みと思いがけない結果。ストレスと排泄物は直ぐ水に流す、快眠快便の●が消化器系癌の恐れありとは。東大三鷹寮で同期の群馬県立癌センターの沢田副院長に電話。内視鏡検査しても大腸癌が見つかるのは千人に3人だ、50過ぎたら検査した方がいい、と大腸癌の権威の沢田君。それにしてもお尻からどうやってカメラを入れるんだろう。グルグル回したりするんだろうか。大腸や直腸の手術じゃ、糞尿まみれで大変だな、んまあね、そんなの気にならないよ、と沢田君と会話したことがあるのを思い出す。そこで最近内視鏡でポリープを取った友人にも電話する。下剤を飲まされ、でっかい浣腸をされるけど、痛くないよとのこと。

通じはいいから、浣腸まではしなくていいだろう。痛みに弱いから痛くないのは助かる。検査の朝、下剤を2リットルの水に溶かして2時間で飲む。ただの塩水みたいだが2Lも飲むのは骨が折れる。飲む端から下痢が始まり、最後は水を勢い良く噴射するだけ。お尻の部分が開いたコスチュームに着替え、診察台に上る。若い女性医師にお尻にゼリーの様な物を塗られ、指を突っ込まれ下調べ、あっという間に異物を挿入される。最初はスムーズに進むが、ぐっと押され内視鏡が曲る度に鈍痛が走る。力を抜いてオナラを出して下さいと言われるが、力を入れないとオナラもでない。それに腸を広げるため空気を吹き込まれるので、意思しない時に空気が漏れてオナラが出る。

何事もなくようやく大腸の上部まで到達したらしい。「なかなか腸が開かなくて」、背中越しに会話が聞こえる。一休みして帰り道だ。男性の医者から言われて寝返りを打ちテレビの画面を見る。綺麗なピンクの腸の内壁の一部に血管が集まり、赤黒く見える部分がある。ああ、これが癌ですね。●の見たてを医者は否定しない。間接的な癌の告知だ。告知ってこんな簡単なんだ。かって癌患者に告知すべきか、声高に論じられた時期があるが、

脇には今、家族もいない。国民の三分の一が癌で死に、治る確率も増えた今、癌か癌でないかは問題ではなく、どんな癌か、どう治療するかが問題だということなのか。

三鷹寮の若い諸君と前夜祭？！

入院と手術は御茶ノ水駅前で本郷の事務所に近く、三鷹寮の河野信博先輩(S30年入寮)が院長をする東京都教職員共済の三楽病院に決める。毎日新聞甲府支局に赴任が決まった三鷹寮の後輩の宇都宮裕一君(98年入寮)の激励会を兼ねて、入院前夜●事務所で壮行会。昨年総務省に入り4月から栃木県庁に出向する西浦智之君(98年入寮)、これから就職活動だという大学院の上原毅君(98年入寮)と山本篤君(95年入寮)も駆けつけてくれる。東京海上アセットマネジメントでアナリスト修行中の杉本洋平君(95年入寮)が俺今日は1時間くらいしか眠れないんだよと言いながら十時半頃遅れて顔を出す。

翌12日入院、18日手術。みぞおちから縦に30センチほど開腹、盲腸から先の上行結腸を30センチ切除、周囲のリンパ腺も大分カットして、脂肪過多のせいもあり2時間半の予定が5時間かかる大手術。それでも痛み止めを点滴しながら翌日から歩くと、翌々日には腸の活動も再開、ガスも出て、何も食べていないのに排便もあり、小腸と大腸の吻合もうまく行く。よくある大腸から肝臓、肺への癌の転移もなく、検査の結果意外なことに肝臓、糖尿、コレステロールの数値も正常とのこと。恐れていた?!酒を断っての手の振れもなく、アル中でないことも判明。

万事順調、河野先輩の看立てのように術後2週間で退院だと勇んで1週間後に抜糸すると、脂肪の厚い臍近くが化膿して付かず、もう一度9針縫い直すことになり、1週間退院が延びるも無事術後3週間で退院。

がん病棟から

突然の癌の発見で周りには心配を掛け、クライアントの方々には暫しの休みをいただき、大変ご迷惑をお掛けしましたが、本人はいたって平気。退院すれば支払われるだろう保険金を当てにして? B5ノート型パソコンを買い退院前に●通信を完成せんと、最後の1週間は日中病院から本郷の事務所に通いながら悪戦苦闘。癌と知った時は最近相次いで60歳早々に亡くなった、かつての安田講堂防衛隊長今井澄参議院議員や旧ML派の指導者畠山嘉克先輩の異なった癌との戦い方を思い出す。癌で余命いくらと宣告されたら、残りの時間を全て癌との戦いに使うのではなく、日常の生活をできるだけ続けて多少は人の役にも立ち、癌と相談してモルヒネを使い静かに人生の幕を引きたい。起伏多い人生だったが、生きたいように生きて50半ばまで来た。幸い、長男は仕事を持ち孫もいる。娘も大学院浪人中だが、遅いからどうにか生きて行くだらう。子供をつくった社会的責任は果たした。神は人間が作ったものだと嘯く不心得者だから、葬式に坊さんは要らない。賑やかに偲ぶ会でもやって、最後のコーディネーター役でもさせてもらえれば最高だ。BGMは青い山脈か高校三年生がいい。未だやりたいことは沢山あるが、“ねばならない”という人生は大

分前に捨てた。癌で死ぬということは死ぬまでに時間があるということだ。それまでにやりたいことを多少はできるなどと色々考える。

リンパ腺も大分切除したが、幸い術後の化学療法は抗癌剤の散剤を朝夕飲み、月に1度検診を受け、年に一度内視鏡検査を受けて、2年間様子をみようということになる。入院して抗癌剤の点滴を受けるのと違い副作用もなく、普通に日常生活を続けられる。夜目を覚ますと“痛いよ、痛いよ”という末期癌患者の叫びが聞こえ、痔持ちの直腸癌患者は便が漏れ、排便の度に脱肛すると訴える。肺を切ったばかりの隣の患者は息をするのも大変そうだ。腸から肝臓ともう一つの臓器に転移し、3臓器を一緒に摘出は出来ませんと告知される患者もいる。やせ細った綺麗な若いお嬢さんもいる。突然大腸を30センチも切り取り、4週間も入院したのは痛手だったが、自覚症状も他の臓器への転移もない内に見つかり、群馬県立がんセンターの沢田副院長が大腸癌なんて誰が切っても同じだよと、暗にそんな手術で俺のところに来るなと言うくらい単純な手術で済んだのはラッキーだった。

それに“清く正しい”4週間のお陰で、一番心配していた肝臓も休ませることができた。パソコンもワープロ代わりに使えるようになり、普段は仲々読めないハードカバーもソロスのグローバルキャピタリズムとトフラーのネクストササエティ、中国革命を批判的に扱った大河小説ワイルドスワン上下など、何冊か読むことができた。何よりも命には限りがあるということを実感的に感じることができた。癌に感謝しなければならない。現在の医療水準では5年生きる(完治する)確率は80%くらいのようなのだ。取り敢えず5年生きることを目途に、より充実した人生、より多くの人に役に立つ生活を心掛けようと思う。

今回の入院は当面の活動で迷惑を掛ける人にしか連絡しなかったのですが、沢山の方々からお見舞いやら、激励をいただきました。ありがとうございます。退院を記念して、緑の地球ネットワークの鵠の森の植樹と、タイの就学支援施設バーンサンラックへ寄付することで、皆様への感謝の気持ちに代えたいと思いますので、宜しくご了承下さい。

アマダイ通信NO.37

(Tile fish network letter)

03年紫陽花の季節に

知人・友人各位

前号で突然大腸癌の手術を知らされ驚かれた方も多かったと思いますが、今まで余り検査したことのない方は検査された方がいいかもしれません。切れれば済む大腸癌も腸閉塞や腸穿孔まで進むと難しくなります。下痢や便秘などの自覚症状のない内に発見できた●は、まだ死神には魅力ある存在ではないようです。

水仙の季節に入院し、お蔭様でどうにか今年も桜の木の下で散りゆく花を惜しむことができました。2ヶ月“娑婆”で元気に活動した後、遷り行く紫陽花の色を愛でる間もなく、術後の化学療法のため再入院し、二月ぶりにパソコンのキーボードを叩いています。一週

間の予定なのですが、我が家の小平用水の土手の花は何色に変わっているでしょうか。

冥途の土産に娘とアマポーラ咲く国へ

ここ数年、5月の連休はヨーロッパへ足を運んでいるので、今年はスペインへと思っていた矢先の癌の告知。3月にお腹を30センチも掻き切って、4月に退院できたとして長旅ができるのか。行けたとして脂っこい、肉中心の食事に病み上がりの腸が耐えられるのか。入院先の三楽病院の河野院長に訊ねると、大丈夫ですよと簡単に言う。大学の寮の先輩なので、できの悪い後輩に同情して冥途の土産にスペインくらい見せてやろうということなのか。そこで羽村で胃腸科・内科医院を開業する寮同期の山川君にも電話するが、大丈夫だよと太鼓判。

先輩と同期の名医二人に太鼓判を押され、万一のために娘を連れて行けばいいとようやく安心するが、折からSARSの嵐が吹く。病の身にはSARSも怖いが、かって胸躍らせたジョージ・オーウエルの「カタロニア讃歌」やヘミングウェイの「誰がために鐘が鳴る」の舞台、人民戦線の祖国に行ってみたい。建築業の端くれとしてガウディも見たい。入院前に予約する。アムステルダム乗り換えでマドリッドに降り立ち、古都トレド、コルドバ、セビリアとドンキホーテの世界を南下、マラガ、グラナダ、バレンシアと陽光輝く地中海を横目に、バルセロナから飛び立つ。蒼い麦畑、オリーブとオレンジの丘、アーモンドの山も真っ赤に染める野生の芥子の花、アマポーラの絨毯を6日間で2千キロメートル走る強行軍。もっとも、地中海性気候の乾いた大地は湿潤な日本ほどに、植物がのさばることを許さないのだが。そんな乾きの中の強行軍にも病後の●の肉体は平気だが、娘はオリーブ油が合わなかったのか、体調をこわす。

今時人民戦線では売れないのか。反ファシズムを旗印に外人部隊が全世界から駆けつけ、オーウエルやヘミングウェイも従軍した、兵たちの夢の跡を、少しは辿れるかとの●の期待は外れ、遺跡とフラメンコ、美術館とパエリア、ガウディの建築を求めツアーはひた走る。スラリと健康的な姿態をくねらせ踊るジプシーの娘もなかなかセクシーだが、眼光鋭く、眉間に皺を寄せ、激しく床を打ち鳴らし、小山のような尻を微妙に震わせ、時に牝牛の如くダイナミックに跳ねる大年増の迫力には敵わない。生きることの辛さ、恋の切なさを歌う点でフラメンコもシャンソンも、日本の演歌も同じと思うのだが、演歌には反応しない大和撫子も、目を輝かせている。

お酒を捨てますか？命を捨てますか？

退院間近かに、ようやく手術で取ったリンパ腺の検査結果が出る。遅いので悪い予感があったのだが、9個採ったうち3箇所にも癌が転移している。抗がん剤を飲み続けるか、入院して点滴するか、あらためて問題となる。検査では肝臓や肺など他の臓器には転移していない。転移すればプラスとなる腫瘍マーカーも正常値だ。意見の分かれるところだ。羽村の山川君に相談する。5FU（フルオロウラシル）だけ飲むよりは他の抗がん剤も併用し

血管に直接送り込む点滴療法の方が、5年生存（完治）率が高いという。

それになー、アドバイスが続く。今転移してないと言ってもリンパ腺まで行ってりゃ、体中を癌細胞がぐるぐる回り、取り付きやすいところを探しているんだ。人間にはわからないが、もうどこか巣食ってるかも知れないよ。転移しやすいのは肝臓だから負担かけないようにしないと。酒を止めるか人間を止めるか、突きつけられた気分だ。わかった、酒を飲まなきゃいいんだよな。土曜のその日から晩酌を止める。日曜も月曜も飲まない。火曜日に家族で美味しい中華料理を食べる。物足りない顔をしていたのが、紹興酒を飲みたいんでしょ、娘が言う。赤ワインはポリフェノールだから体にいいよ、娘の一言に押されてグラスで頼む。余り好きな酒ではないが、もう一杯飲む。薬だと言っても赤ワインもアルコールだ、2杯で止めにしよう。殊勝に最初は2杯で止めても、2杯が3杯に、赤ワインが白ワインになり、日本酒とビールまでレパートリーが広がるのに時間はかからない。それに好きな酒を我慢するストレスも体に悪い！なんてこじつけたりもする。

三日坊主の●にはスペインのワインが美味しい。海鮮などの炊き込みご飯のパエリアは名物料理だが、こちらはどうもいただけない。時に焦げ過ぎたり生煮えだったり、評価の分かれる点だ。粉っぽくて硬い名古屋の山本屋の味噌煮込みうどんをなぜかスペインで思い出す。それに、欧米でいつも感じるのだが、スペインも食事が単調だ。朝食がバイキングの時はいいが、パエリアならパエリアだけがドンと出て、後はサラダかスープに甘いデザート。バルセロナでようやく名物のパエルに入って、色々つまみながらワインを飲む。カウンターに大皿料理が並ぶ小料理屋のようで、なかなかいい。

リスクと選択、何のために・・・

前号の●通信を見た三鷹寮同期の群馬県立癌センターの澤田副院長とはメールをやり取りする。このままで2年後に転移し再発する確率が30%、残り70%の人は再発しない。入院して抗がん剤を点滴する化学療法は、再発しない70%の人には無駄ということになるが、自分がどっちに入っているかわからないので、30%のリスクを避けようとしたら、点滴療法をした方がよいとのこと。

幸い経口の抗がん剤ではまだ出ていないが、点滴で大量の抗がん剤を直接血管に入れることになると、効果も大きいかわりに吐き気や倦怠感、食欲不振、脱毛などの副作用があって体力を消耗し、体力がないと時にそれが命取りとなる。プロ野球だって3割バッターはなかなかいない。30%もリスクがあるなら取り除かなくっちゃと考えるか、70%大丈夫なら、副作用の強い治療は止めようとするか。月1週間の入院を5ヶ月繰り返すというのも痛手だ。クライアントにも迷惑をかける。それに退院後の2ヶ月間、週に2日ほど休肝日を設け、2次会も行かず、酒量も減らしているとはいってもあちこち飛び回り、手術前と同じように活動している。見た目には全くの健康体だ。入院した1ヶ月弱という時間と長さ30センチの大腸だけがダルマ落としのように弾き飛ばされて、上のダルマがストンと落ち、何事もなかったように生活は又、回っているのだ。

データを集めリスクを判断し、といっても素人にできることはたかが知れているのだが、そのために医者がいる。最終的に選択するのは自身だ。まだ50才台半ばだ。今は“人生わずか50年・・・”と謡った信長の時代ではない。闇夜に鉄砲を撃ちまくる感もあるが、リスクを最少にするために入院することにする。ここまで生きたいように生きて来て、子供も大きくなり孫までいるが、まだやりたいこともあり、もっと他人の役にも立ちたい。人の世は浮世か憂世かと問われれば、団塊の世代を中心に年間3万人が自殺するという、生きていくのが難しい時代とはいえ、憂き世と感じてはいないということか。

病人の制服はパジャマ？ポケットが欲しい

2度目の入院前夜も赤坂の中華料理屋で、久しぶりにアメリカから帰った三菱化学の水野凜一君を囲み、最初の駒場の中国語クラスの今年2度目のクラス会。紹興酒をたっぷり飲み、朝慌てて自分で荷造り。スーツケースを引き単身で入院。パジャマにはポケットが一つしかないからと、前開き、ポケット付のチョッキまで用意したはいいが、スリッパと箸を忘れ、売店で買う。一日中パジャマじゃメリハリが利かないとジーンズの上下も用意するが、直ぐ抗癌剤のぶっ続けの点滴が始まり、コードでコンセントに、管でスタンドに縛り付けられ、着替えなどではしない。

それもこれも暴飲暴食のせいと反省するが、続かない。これでは猿以下である。顧問先の高橋カーティンウォールの高橋社長にも「干場、君生活習慣を変えなくっちゃ！」と説教され、能代高校の同期会でも「干場駄目だ！俺が預かる」と一升瓶を抱えた小野寺住友不動産常務から一杯ずつ貰う羽目になったのだが、術後も体調は変わらないので、いつの間にか元に戻ってしまった。幸い、このもって生まれた体力のせいか、吐き気もおきず、食欲旺盛で、抗癌剤の副作用もみられず、ベッドの上でキーボードを叩いているのだが。

アマダイ通信NO.38

(Tile fish network letter)

03年残暑の候に

ステージ b・・・殆ど治る見込みなし！

脂肪壊死！で化膿したお腹の傷口を9針縫い直し、退院が1週間延びたことを除けば、万事順調な大腸がんと闘病生活ですが、何分にもこれから先のことが気にならないと言えば、嘘になる。何から何まで担当医に尋ねる訳にもいかないし、治療法にも諸説ある。癌と闘うなという先生もいれば、漢方や気功を取り入れる先生、抗癌剤に重きをおいたり、放射線を重用する先生もいる。消化器系の癌では初期のもの、末期のものを除き開腹して患部とその周辺を切除、併せてリンパ節も広く除去し、術後に抗癌剤を投与して再発と転移に備えるのが主流で、東大病院第一外科がリーダーシップをとっている。お世話になっ

ている三楽病院の河野名誉院長や、大学の寮同期の群馬県立がんセンターの澤田副院長、羽村の山川医院の山川院長も東大第一外科の出身である。

7月に2回目の化学療法で入院中に「胃がんと大腸がん」という岩波新書を、よくまとまった教科書的な本だなと読み進むと「b・・・ほとんど治癒する見込みなし」とある。生命保険会社に出す診断書にbとの記載があり、何だろうと思いながら、それまで読んだ本では解けなかった疑問が解ける。それにしても直る見込みなし！とは。他臓器への転移は認められず、腫瘍マーカーも正常というのに、これはなんだ！治癒する見込みがないなら生き方も考え直さなければ！因みにステージⅡは進行の度合いを表し、粘膜・表皮・内皮・筋肉・外皮の腸の組織の外皮1枚を残すだけの●のそれがⅡで、Ⅲは末期、リンパ節への転移がなければa、あればbということのようである。

2回戦も脱毛、吐き気、食欲不振、倦怠などの副作用はなく、5昼夜連続の抗癌剤の投与が終了すると、予定より1日早く5泊6日で退院。岩波の本だから変なことは書かないだろうし、著者は岡山大の高名な先生で根拠のないことではないだろう。さっそく山川君にメールを打つと、大丈夫だよ、治癒率は80%だとのこと、小心者？の●は一安心。

入院を延ばし、モルダバ川で泳ぐ

月一回の化学療法も2回戦まで終わった。次は8月9日の第二土曜に入院して・・・さてよ、それでは盆休みは病院で終わりだ。可愛いナースに優しくしてもらえても、閉鎖空間に閉じ込められたまま夏休みが終わる。足掛け3年中野刑務所で過ごした70年夏の学生時代以来だ。あの頃は“全世界を獲得するために”という情熱に燃え、女のために人生を変えられるかと振り切って、敢て飛び込むほど意気軒昂だった。“夢も希望も青春も若さと共に消えて行く”とはこういうことか。1週間が耐えられないとは。今更、己の“墮落”を嘆いても始まらない。旅行会社のパンフレットを探す。西欧も北欧も一通り駆け足した。ロシアにも行った。次は東欧へ。89年秋、ベルリンの壁の崩壊を見て思わず流れた涙は何だったのか、モスクワ経由で、去年会えなかったレーニンにも会えれば・・・。

結局、フランクフルト乗継でベルリン、プラハ、ウィーン、ブダペストにそれぞれ2泊、パリ経由で帰ることにする。東ベルリンの川沿いの瀟洒なホテルに泊る。蒼い芝の庭先には白いヨットが繋がれ、太鼓橋の上を黄色い路面電車が走り、その先の古い教会の尖塔から鐘の音が響く。絵になる風景でつい泳ぎたくなるが、川面に浮かぶアオコを見て止める。あれほど頑なに東西の往来を拒んでいた壁も、壊れてみれば高さ3メートル、幅30センチほどのちやちなものだ。多少東ベルリンには廃工場や空地が目立つ気がするが、こちらが東であっちが西と言われてもよくわからない。プラハではかのカレル橋を船でも潜るが、ドナウ川では誰も泳いでいない。ウィーンへの途中、世界遺産のチェスキー・クルムロフでバスが止まる。古城と教会を巡ってモルダバ川が流れ、堰でゴムボートを滑らせたり、泳ぐ沢山の山の人々。幅20メートルほど、腰の深さもない。一瞬こんな小さな川で大人の大人がと思うが、ここは海から遥か遠い。日本海を我がプールとして育った●も郷に入

らずんば郷に従えだ。が、まさかこんなところで泳げるとは。海パンはバスのトランクの中で昼寝、濃紺のボクサータイプのパンツなので、ま、いいかと川に入る。覆う物が1枚少なくなって、短パンの下の一物は心なしか軽やかである。

この夏のヨーロッパは記録的に暑かったらしいが、湿気が少ないのでしのぎやすい。ウィーンの新しいホテルには冷房がなく添乗員は気にしていたが、窓を開けて寝れば気にするほどでもない。ブダペストでは、ホテルの温泉の方がいいという現地ガイドの忠告を無視、ゲレルトの温泉に行く。チケット売場で千フォリント（500円）払うが、モギリの親爺が入れてくれない。チケット売りの婆ちゃんがくれたのは500フォリントの見学券らしい。婆ちゃんに入浴券を寄越せ、駄目なら千フォリント返せと連れが英語で迫るが、涼しい顔で知らん振り。これも勉強と諦めてホテルの温泉に入るが、中々快適で、日本から同行した海パンもようやく役目を果たす。

プラハではエヴィアンなど輸入飲料水は24コルナ（96円）ほどだが、国産品はその1/3ほど、カフェで飲むビールが1杯1ユーロと物価が安い。さらに看板の少なさ、街のくすんだ感じからドイツやオーストリアと多少経済格差も感じられるが、失業者が多いという割りには街にはホームレスの数も少ない。高々半世紀の「社会主義」政権では、ハブスブルグ帝国5百年のストックを揺るがすほどの影響を与えることはできなかったのだろうか。89年のあの涙は、「社会主義」の無力さ、空しさへの涙だったのだろうか。

アマダイ通信NO.39

(Tile fish network letter)

03年菊の花の季節に

励ます会に本人が出られない！

大学の三鷹の寮で1年下の辻 恵君が大阪3区から衆議院議員選挙に出るので、事務所を住所に東京後援会を作り、10月8日に東京での励ます会を設定するが、民主党の公認決定が出ない。時間だけが過ぎ、辻君も銀座の事務所で弁護士稼業に忙しい。民主党と自由党の合併で調整に手間取り、10月に入りようやく公認となる。いよいよ本格稼働だが日にちが足りない。励ます会は4回目の化学療法から退院予定の16日に延ばす。

先ず封筒と案内状の原稿を作り印刷屋に発注、名簿を集め発送の手配をする。3千通は連休前の10日までに発送するが、残り2千は連休明けの13日以降になるが仕方ない。カンパだけの人もいるので告知はしなくては。民主党の菅代表や、鳩山由紀夫、小沢一郎他、国会議員の先生方に挨拶をお願いするが、選挙区での応援で時間を貰えない。選挙区なら票になるが、東京の励ます会では直接票にならない。東京選出の衆議院議員や参議院議員に期待するが駄目で、辛うじて東京選出の小川敏夫参議院議員が応援に駆けつけ、上田清埼玉県知事も祝電をくれるという。辻君の大阪の大手前高校同期の芥川賞作家三田誠

広さんも応援に来ることに。これでどうにか入院できる。

これまでと同じように10月11日の第二土曜日の朝に三楽病院に入院。直ぐ血液検査をしてもらい、昼過ぎからさっそく抗癌剤の点滴を始める。●の経験からするとイベントの参加者は催しの性格にもよるが大体、告知した人数の1~3%、普通は1.5%ほど。今回は意外性もあるが時間が足りない。大きい会場がスカスカでは意気が上がらない。狭い会場にギュウギュウ詰めの方がいい。それに赤字は絶対避けなければ。弱気になって少し狭い部屋に変更。会場に吊るす看板も知合いに頼み節約、食べに来る訳ではないからと食事の数も減らし、点滴のチューブを引きずりながらあちこち電話して応援を頼む。

ところが当の辻君が選挙区に入ったきり、東京には出て来れない、当日は選挙区で五つも集会が入ったという。選挙区で有権者に訴えた方が票につながるが、準備不足の上に本人が出席できないとは！今更止める訳にも行かない。心苦しいが本人不在は当日まで伏せてビデオで参加してもらい、奥さんを代役に立て、それだけ本人も頑張っているということで許してもらおう。当日、ナースに点滴の速度を調節してもらい1時間ほど早めに退院。事務所で最後の準備をして学生会館に駆けつける。出足が悪いが6時半の開会時間には大手前高校や三鷹寮のOB、大学の友人、辻弁護士のクライアントで立錐の余地のないほどだ。ほやほやの三鷹寮OBで法学部3年の石塚君も受け付けを手伝ったりしている。イベント屋？●の危惧を吹き飛ばし、本人不在の励ます会は大いに盛り上がる。

胃や食道ではなく、大腸がんでラッキー？！

3月に大腸がんを手術。リンパ節に3箇所転移していたので、他に転移の虞ありと、月に1度入院して化学療法をすることになる。6、7、9、10月と1日5百ccの5FUを主体に、5昼夜通しで抗癌剤を点滴する化学療法を大過なく終えるが、9月の3回戦、10月の4回戦と少しずつ副作用も出て来る。野を駆け、海を潜り、スキーを担いで山々を巡り、時に書を読む。都会の受験少年には想像もつかない日々を送ることで獲得した頑健な肉体も、化学兵器に起源を持つ抗癌剤の蓄積に侵されつつあるようだ。

9月の3回戦から食欲が衰え、病院では何を食べても美味しくくない。3月に手術で4週間ほど入院した時は、初めてということもあり、手術の前後は絶食するので、病院食も結構美味しいんだ、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられると感心した。手術前後の絶食から、重湯、お粥と段々食べられるようになると普通食が待ち遠しかったのに、9月の3回戦から食欲が衰え、何を食べても美味しくくない。口の中もいがらっぽく、周りまでポッポする。口内炎にかからないように、うがい薬を使うが、退院してからも1週間近くそんな状態が続く。

10月の4回戦からは病院食の匂いを嗅ぐだけで気持ちが悪い。女性のつわりもこんなものかと思う。食道と胃の粘膜も炎症を起こしたのか、胸焼けから始まり、次に食べ物を飲み込むと食道の辺りが焼けつくように痛い。その範囲と程度が段々酷くなる。食道癌や胃癌で食道や胃を切った人が食事の時にとても苦しうだったが、こんな感じだったのか

と思に至る。この状態が退院してからも4、5日続く。口の中で嚙んでいる間は美味しいのに、飲み込むと苦しい。胃や、食道ではなく、大腸の癌であったことを、幸運に思う。

化学療法、そして・・・

9月の入院でCT(断層撮影装置)を撮るが、他の臓器への転移は認められず、腫瘍マーカーも正常、主治医の阿川先生からも大丈夫かなと言ってもらいと、一安心すると同時に、1週間近く拘束され、副作用で多少はつらい思いをする入院は避けたい、との思いも募る。幸い、CTでは確認できない小さな癌でも発見できる検査システムのペットの普及が進み、健康保険も適用されるようになり、7万円ほどで診断が可能という。ペットで発見された小さな癌に対しては重粒子線をピンポイントで照射する効果的な治療法もあるという。ならば、CTでも腫瘍マーカーでも確認されない癌細胞、謂わばいるかいなかわからない敵に対して、部屋の外から銃を乱射するような化学療法から一歩進んで、もう少し確度の高い治療をやりたいとの思いも強まる。

三鷹寮同期の群馬県立がんセンター澤田副院長の弟子を自称する阿川先生に相談すると、やはり化学療法は予定通り5回やった方がいい、その後は定期的に検査しながら経口の抗がん剤を飲み続け、2年で再発しなければ一応治療は終了とのこと。一定期間抗癌剤が体内を巡ることで、がん細胞を叩くことができるという。毎月1週間拘束されるのは色々な意味できついが、ここまで来たのだから貫徹しよう、その後ペットの検査の紹介状を書いてもらおうということにする。ペットでも1センチ近くの大ささのがん細胞まではわかるが、それより小さいものは結局わからない。発見されれば重粒子線を照射すればいいのだが、ペットでわからない程度のがん細胞にたいしては手の打ちようがない。そんなものにまで手を打つ必要があるかという議論もあるのだろうが、リンパ節への転移があり、他への転移の虞がある以上、2年間は抗癌剤を避けて通ることはできないということなのだ。

アマダイ通信NO.40

(Tile fish network letter)

04年元旦

無事五回戦終了、闘病第三期へ

入院して一日5百ccの5FU(フルオロウラシル)を主体に、抗癌剤を5昼夜連続で点滴する化学療法も11月で無事終わる。10月の四回戦では食道や胃の粘膜をやられ食事をするのが大変だったので、今回は最初から食道や胃の粘膜を保護する粘っこい飲み薬を貰う。お陰で食事時の痛みは消えるが、食欲不振は相変わらず。四週間入院し大腸をリンパ節もろとも30センチ切り取った闘病第一期で、73キロから68キロまで減った体重だが、その後の懲りない暴飲暴食で71キロまで回復。それが5昼夜で1キロスリムになる。も

っと減って欲しいが、食欲不振の割には余り減らない。体も使わないからだろうか。

半年かかった抗癌剤集中治療の闘病第二期も多少の食欲不振、消化器系の炎症を除けば、脱毛、白血球数低下、吐き気、酷い口内炎などといった典型的な副作用も余りみられず、点滴終了と同時に病院を飛び出して、職場復帰する我がまを許してもらった。瀬戸内寂聴は剃髪の方がずっとかわいいが、碧の黒髪は一般的に女性にとっては大変大事なもののようで、病室でも帽子を被っている女性患者が多いが、治療が終われば又、生えて来る。こわいのが白血球数低下による感染症だ。そのため抗癌剤の点滴が終わっても白血球数が回復するまで数日、病院に留め置かれることが多い。

11月に退院後スタートした闘病第三期は、二年間続く。取敢えず30日分もらった抗癌剤の顆粒を朝晩一服ずつ飲んで、1月後主治医の阿川先生の診断を受ける。転移の怖れの強い肝臓と肺のCT(コンピューター断層撮影)を見せてもらい異常なし、腫瘍マーカーも異常なし。白血球だけでなく、血小板も正常値とのことで、次回の診察は2ヵ月後で大丈夫でしょうと、60日分の薬をもらう。二年後も変化がなければ他臓器への転移なしとなり、抗癌剤から開放され、五年無事に経過して完治ということになる。ついでにうかがうと気になる脂肪肝も大したことなしとの診立て、一時期少し高かった血圧も正常値になっている。一時考えたPET(陽電子放射断層撮影)と重粒子線による検査と治療は、腫瘍マーカーが正常値を示している所以要らないでしょう、腫瘍マーカーの数値が異常で、CTでも患部を特定できない時にやればよいという結論になる。

取敢えず命に別状はないとしても、結局、リンパ節への転移の有無が治療法の分かれ目、転移なしなら患部の切除で終わる。謂わば審理の結果死刑の宣告が猶予され、その場で釈放だ。転移があれば抗癌剤療法が必要となる。死刑が宣告され一時刑務所に収容、“矯正措置”を受けるが、二年間死刑の執行が猶予される。矯正期間が終われば釈放、時々裁判所に出頭し尋問を受ける。“生活態度”(これが問題だ!)が良ければ五年で死刑の宣告が取り消され、裁判所への出頭もなくなる。要は癌になってもリンパ節へ転移する前に発見し、治療することが肝腎だ。その意味でも定期的に検診し、早期発見に努める必要がある。

浮世と憂世はコインの裏表、いざ！エジプトへ！

毛沢東の実践論・矛盾論ではないが、武具には攻具と防具があり、コインにも表と裏があるように、人間にも表裏がある。とは言っても裏表のある人間とか、ととかいう訳ではない。物事には矛と盾、コインの裏表のように二面性がある。両面をバランス良くみて行動する賢い人もいるが、専ら表の、積極面を見て楽観的に考える人、裏側のマイナス面に目が行って、悲観的になる人がいる。癌を告知されると、程度の差はあれ落ち込み、うつ状態になる人が多いようであるが、能天気な単細胞🐣は、大方の傾向に反して何時も楽観的で、逆境でも積極面、希望を見ようとする。

大腸がんを手術、リンパ節にも転移し、肝臓や肺に転移の虞ありということになっても、外皮一枚残すところで留まり、腸壁が破れなかった。癌細胞が腹腔内に拡散して手遅れに

ならず済んだと、胸をなで下ろす。隣のベッドで肺がんの患者が呼吸するたびに苦しみ、食道癌や胃癌の患者が食事が喉を通らないと訴え、直腸癌の患者が便の漏れを嘆くのを聞いて、大腸癌で良かったと自らを慰める。切った腸がつながりさえすれば、生活に何の不都合もない。不都合のないことが、癌が生活習慣病の一つと言われる、その生活習慣の改善に結びつかない。相変わらず飲んだくれ、それが次のステージで運命を暗転させるのではと、多少は危惧する。が、取敢えず、ま、いいか、ラッキー、やりたいことをやって・・・と考えてしまう。いよいよ死の間際にどう考えるのか、と、来世の存在を信じない●は心配するが、多分、これで憂世とおさらばできる、とでも思うのだろうか。

そんな●に天も味方したのか、浮世を愉しむ軍資金を少しプレゼントしてくれる。会社を作った時に、かつての慶大共闘ML派の“同志”村中裕君に、退職金代わりにとすすめられて、ソニーの生命保険に入る。死ねば生命保険がセットの住宅ローンもチャラになるし、他にも保険金が出る。カミさんも働いているし、十分だ。生きている間に保険金ももらえる保険はないかね？冗談半分に村中君に訊ねると、あるという。毎月二万円弱掛けると、癌や脳梗塞などの成人病になれば一千万円貰えると言う。脳梗塞や心筋梗塞で、あっという間に成仏できれば使う暇もないが、癌であれば、余命の半年や一年はある。働けなくなった時は生活費になるし、死ぬ前に世界一周旅行でもすれば冥土への土産話にできる。これは面白いと入る。(興味ある方は090・3530・6519村中君へ)

軍資金を手に五月の連休は娘とスペインへ、お盆休みは顧問先の社長とチェコ・ハンガリーに遊ぶ。ハプスブルグ帝国の次はオスマントルコへ歴史を遡ろう。正月休みはいよいよイスラム世界へと計画するが、冬のトルコは寒くアンカラ辺りは雪が降るといふ。躊躇している間にイスタンブールで自爆テロが相次ぐ。暖かいエジプトに変えると、今度は阪急旅行社の同じツアーで、カイロ・アレキサンドリア間で立て続けにバスの横転事故が起き負傷者が出る。さすがに同区間は列車に変えると連絡があり、現地の人間と交流できバスより面白いと気持ちを切り替えると、同じ旅行社の南米ツアーでバスが道路から転落、7人怪我したニュースが入る。せっかく癌には諦めてもらえたかと思い始めた命なのに、交通事故で失うのはもったいないが、シナイ山での初日の出も中々魅力的である。

アマダイ通信NO.41

(Tile fish network letter)

04年早春

知人・友人各位

立春も過ぎ随分春めいて来ました。小平用水の土手に植えた水仙やヒヤシンス、チューリップも間もなく咲きそうです。新幹線も混んできて、景気にもようやく明るさが見えてきた感がありますが、読者の皆様は如何お過ごしでしょうか？大腸癌発見からほぼ1年、色艶よく脂ものった●は“世界の海”を泳ぎ、白銀の山を滑り、夜毎酒を食らい

ます。“銀座干し”(🍇の一夜干しの別名)にして分けて上げたいくらいの元気ですが、さてどこまで続くやら。この便りが届く間は元気ということで、41号をお送り致します。

- bは余命2年！例外か？散り際の線香花火か？

2月5日の東大三鷹クラブ第52回定例講演会で寮の先輩の河野信博山楽病院名誉院長(S30年入寮)と、丹波實前ロシア大使(S32年入寮)の講演が始まる前に立ち話。元気そうじゃないか。元気過ぎて困るんです、調子がいいものだからちっとも生活態度が改まらなくて、段々元に戻って、毎晩飲んだくれて。大腸がんはステージ - bだったんだって？えー、リンパ節に三ヶ所転移していて。医者は逃げを打つこともあって - bだと余命2年と言うんだよ、データではそうだけど、個人個人は別だから、顔色もいいし大丈夫だよ。元気だから二ヶ月に一回でいいだろうというんで、診察して二か月分抗癌剤もらって朝晩飲んでるんですけど、今のところCT撮っても肝臓にも肺にも転移していないし、腫瘍マーカーも正常値なんです。マーカーは数値より段々低くなって行くのがいいんだよ、余り無理しないで、例外になるように、癌に負けないように元気に頑張るんだよ。

余命2年か。もう1年近くなるから、普通だと後1年だ。何も不都合は感じないけど、この元気は散り際に一瞬ひと際明るく輝く線香花火か。去年の今頃だって週末にはスキーに行って、毎晩楽しく酒飲んで、体調は絶好調だったのに、癌はしっかり大きくなってリンパ節にも転移していたんだ。この転移さえなければ、もっと早くみつければ、大腸を切つてつないでハイ終わり、だったんだ。今だって、この元気な体のどこかで、静かに癌細胞は成長しているかも知れないのに、毎晩飲んだくれて。癌も生活習慣病の一つだというのに生活習慣がちっとも改まらない。そんな🍇を心配して、癌に勝つには免疫力を高めなければ、そのためにはサプリメントのアガリクスを飲んだり、食事療法等の方がいいと色々薦めてくれる人がいる。ありがたいことだが、体調がいいのでなかなか本気で取り組めない。それに食事療法では、本人や連れ合いが殆どそのことだけのために全エネルギーを費やしなければいけないが、仕事も持つ連れ合いに自分の命だけのために、君の24時間をくれと求めることはできない。

せめて 豚肉、牛肉は1日80gまで、 適度な運動、 1日あたり野菜350g以上、イモ類の摂取を心掛ける、 飲酒は2合程度まで、飲酒後下痢をしない程度までとする、 総摂取エネルギーの中で脂肪由来は20%程度に、 BMI(体格指数)は25以下、 精製していない穀類の摂取を心掛ける、 禁煙、無理ならせめて減煙、という大腸癌予防策(「克服できるか生活習慣病」、田上幹樹三楽病院副院長著、丸善ライブラリー)を頭に入れておこう。田上先生によればこれは全ての生活習慣病に当てはまり、「諸悪の根源は肥満」であり、「肥満」がベースになって発症する病気が生活習慣病なのだ。

“他人(ヒト)の役に立ちたい！症候群”

余命1年？ということになって、さてその1年をどう生きるか。刹那的に遊び暮らすか、

悲観して自ら命を絶つか、変わりなく淡々と生きていくか、天の声を聞くか？例外的に1年以上の命だとして、そうあることを期待してしまうのだが、その先の人生をどう生きるのか？人それぞれだろうが、起死回生、乾坤一擲、大きく変わる人生航路を頭の中で描くことはできない。それでは神懸りにも、新興宗教の教祖様にもなれない。

病を得て変わるにしてもエネルギーが必要で、青春時代に病も得ずして変わることができたのはエネルギー故か、或いは重篤の“病”そのものだったか。以来、人の役に立ちたいと念じながらゲリラ戦を闘い、ルールを外れて時に脇で眠るしかなかった。人の役に立っているということを確認することでしか、生きていることを実感できない“他人の役に立ちたい”症候群。若き日の混沌の中で罹った“病”は死に至る病なのであろうか。

“人の役に立つ”形は様々であるが、社会の階梯を上り、組織の中で報酬を得て大きな仕事をするのも一つである。仕事をする事で社会に大きく貢献できるのは幸せである。多かれ少なかれ他人の役に立つ、社会に貢献するから仕事も成り立ち、報酬を得て生活もできるのであるが、多くの報酬を得てする仕事は社会貢献として意識されることは少ない。そこにボランティア活動が社会的に尊重される所以がある。無報酬で、或いは少ない報酬でも、社会に貢献する活動が存在し、時に時代を先取りし、次代の形を準備することもあるのである。

アマダイ通信NO.42

(Tile fish network letter)

04年蝶舞う季節に

“余命2年”から1年、どうにか？今年も花を愛でる

“願わくば桜の花の木の下で”と思った訳ではないが、昨年の花見は大腸がんの病床から外出許可を貰い、恐る恐る？ノンアルコールビールをチビリチビリ。5次の抗癌剤集中治療も無事終え、今年は晴れて“桜色”。調子に乗り花見酒を飲み過ぎたか、二ヶ月振りの診察で腫瘍マーカーもCT画像も異常なし、リンパ節の腫れもないが、肝臓の数値が少し悪いので休肝日を作るようにとの指導。折から国会にかつての“駒場共闘”のマドンナ、社民党政調会長の阿部知子代議士を訪ねると、駒場で同期の医師が浴びるように酒を飲み、肝硬変と静脈瘤破裂で亡くなったのよ、知ってる？とのこと。

主治医の阿川先生が「なかなか休肝日を作れなくて」と弱音を吐くものだから、お医者さんがそれならと高をくくっていたのだが？その阿川先生に休肝日を宣告されたからには、どうにかして休肝日を作らなくては、癌を克復しても他の病で命を失うことになる。日本人の二分の一が癌に罹り、三分の一が癌で死に、差し引き六分の一は癌以外で命を落とすことになるのだが、さてどちらが良いのか。いずれにしる肝臓にダメージを与えれば、癌にも取り付かれ易いは道理。そんなことと笑われそうだがどうやって休肝日を作るか、

酒好きにはそれが問題だ。生きるべきか、飲むべきか？

幸い調子がいいので民間療法やサプリメントの類の助けを借りずに済んでいるが、調子のいい時からやってこそ効くのかという気がしない訳でもない。先日も“調子良いようだけれどこのままだと2ヶ月でガックリ来るよ”とサプリメントを勧められる。二ヶ月と言われ一瞬ギクッと来るが、あれからもう二ヶ月近く。どっこい元気に生きてるぜ、と思うと気分がいい。それにしても史上最強のメシマコブだとか、不治の病からこのアガリクスで生還など、うまい話が多過ぎる。

サプリメントとは健康補助食品、機能性食品で健康維持に不可欠なビタミン、ミネラル、繊維などを補強する。一般的には食物中に含まれ、バランスの取れた食事をしていれば自然に摂取、取って摂る必要はない。野菜や海草、茸、魚、雑穀、豆類の多い食事を心掛ければいい。野菜のお浸しや炊き合わせに、ジュン菜のお椀、🍄の一夜干し、若布と胡瓜や菊の酢の物と茸のホイル焼きに牛蒡を添えた鯛のカプト煮で一杯やって、お新香に玄米おこわか茶そばで締める。ちょっと物足りない時は場所を変えてナッツをつまみに赤ワイン一杯。これが理想の飲食生活ということになる。食べ物の嗜好はいいのだが、大腸がんという最悪の結果になったのは飲み過ぎとそれに伴う過食、酒の肴の食べ過ぎか。

42 🍄 1

人は生を生き、共に死を生きる

癌細胞は20代から誰の体内にも巣食い、健康な細胞がその成長を抑えているだけで、ストレスや体力の低下で免疫力が衰えた時に異常成長し、終には宿主の死と共に自らの生にも終止符を打つと言う。人と癌は共に生き、共に死ぬ。言葉を換えれば人は日々生を生き、死をも生きている。

いずれにしろ人間は死ぬ。とすれば死ぬこと自体ではなく、いつ死ぬか、何処でどの様に死ぬか、どう生きるかが問題になるだけだ。無神論者🍄にその先はない。そしてただ生きることに汲々とするのではなく、己のこの世での生を価値あるものと思えば、後に続く世代にもそうあって欲しいし、そのためにできるだけのことをしたいと願うだけである。生き様は又、死に様でもあるから。

思えば人間も地球にとって癌のようなもの。勝手に増殖し環境を破壊する鬼っ子ではあるが、悲しいかな、癌細胞ほどの力はない。人間が壊すことができるのは精々人間の居住環境としての地球だけ、上っ面だけで地球そのものではない。三鷹寮同期の松井孝典東大教授（地球惑星間物理）によれば、これまでの地球の歴史は43億年ほど。寿命の半分を生きたことになるという。人の歴史の何と短いことか。そして地球の寿命ほどの長きに渡って、この地上に人類が存続することも叶わない。己の愚かな行動によって人類が地上から消えても、地球は長いこと回り続けるだろう。人間を地上に置いてやろうと地球が思う限り、人類が平和に地球上で生き続けることができるようにしたいものである。

アマダイ通信NO.43

(Tile fish network letter)

04年夾竹桃咲く頃

元気だね！奇跡だね・・・腸は直っても肝臓ガタガタだよ！

6月の頭、隔月に一回の診察で三楽病院の主治医の阿川先生に診てもらおう。八ロソ湾で汚い水を飲んだんですが？コレラは塩分に弱いから大丈夫。それより大腸菌が沢山いたと思うよ。0-157のような。あ！そうですよね。潜伏期は過ぎてますよね。前回休肝日をとということだったので5日だけ飲まなかったんですが、2日連続でないといけないですか？1日でもいいけど、毎週休ませないとね。腸は治っても肝臓がガタガタになりますよ！

前回の東大三鷹クラブの講演会で一緒になった三楽病院の河野名誉院長(S30年東大三鷹寮入寮)には「元気だね！奇跡だね！」と言われたが、データの的には「胃がんと大腸がん」(岩波新書)の「大腸がんステージ b・・・殆ど治癒する見込みなし」というのも、あながち誇張ではないということだ。術後1年以上経ってこんなに元気だから、もう1年はどうにか行けそうだ。術後2年無事なら再発はなし、5年で完治ということで、データの的には例外に該当することになるが、敵は酒屋にあり！しかも別の病気ということか。

退院直後から飲んでここまで元気に来たのだから、飲んではいけないと神経質になってストレスを増やすのもいけないが、週に一回の休肝日はどうにかしよう。目標？が決まってスッキリする。週一の休肝日に決意を新たにするというのも意志薄弱で情けないが、これが呑み助というものか！？

高橋社長逝く

ハノイ滞在中に、高橋カーテンウォールの高橋治男社長が亡くなる。膵臓がんの手術後6年ほど、糖尿病も併発して最近は大分痩せ、階段の上り下りもつらそうだったが、4月初めの営業会議にも出席されていた。膵臓がんで6年近く存命というのは驚異的な頑張りだが、享年59歳、早世である。50歳で高橋を退社、エコビジネスの起業に失敗、同社の営業顧問にいただいた後も、毎月1回の営業会議に出席、顔を会わせた。昨年大腸がんを手術後は、元々余り飲まない社長から、飲み過ぎはいけないよと注意もいただいた。顔を会わせる度、毎晩酒を切らさぬは太って血色もいいのに、節制に努める高橋社長が痩せて血色も悪くなっていくのには心苦しいものがあった。

40歳でサラリーマンを始めるまで、“定職”に付いたことはないが、受験産業でのアルバイトの傍ら30歳まで学生を続ける間に結婚し、子供もでき、中古の小さなマンションも買うなど、特に困ることもなかった。だが高橋を飛び出し路頭に迷った時は大分参った。バブル崩壊直後に買い換えた住宅のローンが月20万円、子供二人もまだ学生だが、50歳過ぎでのサラリーマンは難しい。だがピンチはチャンス。機会があればと思っていた営業コンサルタントで独立しよう。高橋社長に相談すると快く営業顧問にしてくれ、毎月ま

とまった活動費をいただく。続いて寮の高橋英雄先輩(S34年入寮)のいた日本ビクターの営業顧問にもしていただき、建築関係のメーカーを中心に顧問先も少しずつ増え、情報仲介業もどうか軌道に乗る。偏に●のネットワークと営業スキルに価値を見出していただき、高橋カーテンウオールの営業顧問として一步を踏み出せたからである。

景気には明るさが見えて来たが、建築業界はまだまだ。雇用も増え、消費も活発になってようやく工場や店舗、事務所、ホテルなどの建築が始まる。それに最近の高層ビルはガラスの外壁が増え、タイルや石打ち込みのコンクリート製外壁=PCカーテンウオールは押され気味。テロや震災などの安全面、空調などのエネルギーコスト、飽きの来ないデザイン性、イニシャルコストとメンテナンスコストの安さからもPCカーテンウオールが優れるが、ガラスのシャープでハイテックなイメージが好まれるのである。この難しい時期にご子息の高橋武治社長が跡を継ぎ、叔父さんの高橋敏男専務が会長に昇格した。新社長は東大法学部で●の後輩で、第一勧銀を経て高橋カーテンウオールに入社、アメリカに留学、MBAも取得した新しい感覚の経営者だ。先代社長のご恩に報いるためにも、これまで以上に頑張らなければ。高橋カーテンウオールへの読者の皆様の変わらぬご支援をお願いして、先代社長への追悼に代えたいと思います。合掌。

アマダイ通信NO.44

(Tile fish network letter)

04年炎暑の候

週に一度も休肝できなかつたのに？

昨年三月大腸がんで腸を30センチと周囲のリンパ節9箇所を切り取る手術をして以来、現在の医学のレベルでは癌との闘いも順調に進んでいるようです。月一度5泊しての抗がん剤集中投与も、5クルーを大した副作用もなく終え、年明けからは毎日抗がん剤の5FUを朝晩一服ずつ飲み、隔月に1回三楽病院の阿川外科部長の診察を受け、2回に1回血液検査、半年に1回CTを撮り画像診断を受けます。その間旧然と変わらず仕事をし、毎晩酒を喰らい、二ヶ月に1回のペースで海外に出ているのに、癌再発のシグナルの腫瘍マーカーも低いままですから、癌は何処へ行ったんだろうという感がないでもありません。

8月頭の診察でも阿川先生が二ヶ月前の血液検査のデータを見て、おーいいね。皆正常値だね！休肝の成果だね！と嬉しいことを言ってくれます。でも先生、その時は二ヶ月でまだ五日しか休肝できてなかつたんですよ！この二ヶ月は週一日、大体土曜日休肝してますけど。と返すと、じゃもっと良くなってるね、とデータを渡してくれます。見れば高かったZTTが18.1 10.5、ASTが43 30、ALTが53 25、低かったクレアチニンが0.69 0.76 ナトリウムが136 141、クロールが99 104と一応皆基準値の範囲に収まっています。週に二日休肝できればもっといいのでしょうか、土曜日飲まない日曜の夜はど

うしても、ビールに手が伸びます。それでも飲む時も多少自制心が働くのか、73キロまでいった体重が手術で68キロまで減り、その後73キロに戻ったのが、現在は70キロまで少しですが落ちています。このまま二年過ぎ、五年経って完治となればいいのですが、必ずしも不治の病ではなくなったとは言え、癌にはまだわからないことも多いのです。実際、何の自覚症状もないままに、ほとんど治癒する見込みのないというステージ - bにまで進行していたのですから、今“絶好調”に飛び回っていても、体のどこかで癌は悪さをしているのかも知れません。

だが、わからないことをあれこれ心配しても仕方ありません。人はいずれ死ぬのだし、50代半ば過ぎまで生きて子供二人もどうにか育ち、“妄想”の大きさの割には大したことでもできなかったけれど、人に恥じるような生き方をした訳でもない。問題は見えない癌に振り回されるのではなく、残りの時間を主体的にどう生きるか。20代半ばくらいから誰にでも発生する癌細胞です。手術で病巣を取り切れても、リンパ節にまで転移していたのだから、体の何処かに潜んでいるのでしょう。多分癌自身も長生きしたい筈だ、宿主をそんなに早く殺したくはない筈だと勝手に思って、一緒に生きて行くしかないのでしょう。

アマダイ通信NO.45

(Tile fish network letter)

04年食欲の秋深く

知人・友人各位

秋も深まりましたが、皆様如何がお過ごしでしょうか？お盆休みにトルコ、9月にマレーシアで植樹と、二ヶ月続けて海外に出かけ、食欲の秋を先取り、朝からしっかり食べ過ぎたせいか、史上最高の74キロまで“成長”してしまいました。色艶も良く、周りから“お前本当に癌だったのか？”と言われる始末。が、病気は癌だけではありません。肥満は万病の素、お互い、気をつけましょう。45号を送ります。

干場さん相談に乗って！・・・癌は運？

知人のSさんから、弟さんが癌で東大病院に入院しているので話を聞きたいと電話。東大病院にいるのなら医者でもない私が話すことなどないが、翌日、弟さんも交え赤門脇の学士会館でお昼を一緒にする。少し歳上の、元気そうに見える弟さんだが、腹部に痛みを覚えて医院へ行き癌だと言われ、築地の癌センターから更に東大病院へ回されたという。癌は脾臓から肝臓へ転移し、東大の外科の高名な先生からは手術しても仕方がないと言われているとのこと。見た目にはなんともなさそうなのに、これが癌というものか。

その数日前、東大三鷹クラブの講演会で一緒になった三楽病院の河野名誉院長が、干場君、元気だね！例外だよ、もう大丈夫だね！と言いながら、話してくれたことを思い出す。北朝鮮の拉致被害者の曽我ひとみさんね、肺がんだったんですよ。普通の健康診断では消

化器系の癌はみつかるが、肺がんまではわからないんだ。費用が高いので、CT（断層撮影）まではしないから。場合が場合だから彼女はCTを撮った。そうしたら肺に1センチくらいの癌が見つかったんだ。運だよね。1年早く帰国していたら癌が小さくてCTでもわからなかった、1年遅ければ手遅れだった、運だよね！

このところの人生では余り運に恵まれなかった。又もや、大腸の外皮1枚残すまでの深さで、リンパ節にまで転移しているステージ bの、径5センチの大腸がんで、リンパ節9箇所の切除を含め5時間の大手術をするという不運。三楽病院の阿川先生という名医に出会い、生検で癌細胞が発見された3箇所のリンパ節を含め、患部のがん細胞を全部取り除くことができたということか？術後1年半、丸々太って血色のいいを前に河野先輩が、例外だよ、もう大丈夫だね！と言ってくれるのは、ようやく幸運に恵まれたということか？だが目の前にいるのは東大病院で手術できないと言われ、退院を促されている癌患者だ。アドバイスできることなどあるか？

癌で幸運？

癌に罹って人の話を聞いたり、本を読み、多少知識はついたが、同年時入学の東大病院のM大先生に診てもらっている人に、治療のことなど話す勇氣はない。自分の治療のことと心境を話して参考にしてもらえない。直る見込みがないと思われる患者にその旨を告げるお医者さんの心境も如何許りかと思うが、アドバイスを求められる素人も辛い。

人はいずれ死ぬ。そのことを悩んでも仕方ないが、他の病気でなく癌だったことを幸運と思う。心筋梗塞や脳梗塞は発作で帰らぬ人となることも多いが、癌は宣告されても余命があり、死までのプロセスをコントロールできないにしても、ある程度自分で選択できる。癌と徹底的に闘い、人生の残り時間を全てそのために使うこともできるし、いずれ避けがたい結末ならば、癌との闘いに使うエネルギーと時間は最小限にして、他の目的のために使うこともできる。ある程度の年齢になれば子供も大きくなり、社会に出て一人で生きて行く目途は立つ。収入のない伴れ合いと住宅ローンが残っていても、付帯の生命保険でローンはチャラになり、多少の保険金や退職金、年金で、残された者の生活もある程度カバーできる。家庭を作ったことの社会的責任も果たしたことになる。立派な人生である。

勿論、物事には全て二面性があり、心筋梗塞や脳梗塞の発作で亡くなった方が苦しみが少ないとも言える。要はものの見方、心構えである。余命半年と言われた時に、半年しかないか考えるか、半年もあるか考えるか。半年しかないか考えると身構えるが、半年もあるか考えると多少、余裕ができる。勿論その先も、半年しかないから残りの時間を充実してと考えることもできれば、半年もあるからと無為に過ごす選択もある。できれば物事の積極面を見てプラス思考で生きたい。余命幾許もないと言われた時も、癌との闘いにのみ時間を使うのではなく、痛みはモルヒネで抑えてでも社会的な活動をできるだけしたい、他人のために多少は役立つことをして、あの世があるとしたら、そこへ安らかな気持ちで旅立ちたい。

直る見込みが余りない、余命幾らと言われているかも知れない癌患者に持論を展開してしまった●であるが、取り敢えず死地からは脱したかの如く見える者の話を、どのように感じたことであろうか。Sさんからは大いに参考になりましたと、感謝の言葉をいただいたのであるが。

埼玉医大に腫瘍内科が・・・

Sさんと弟さんには、日本でも抗がん剤をメインに治療する先生もいるし、漢方やサプリメント、気功まで取り入れる川越の帯津三恵病院のようなところもあると、帯津先生の本を渡す。先生も東大医学部の出身であるが、雑司ヶ谷の東大病院分院で修行した。本院では外科の治療をメインとし、分院は異端という人もいるが、癌センターや東大病院を頂点とするメインの治療法から見放された人にとっては救いになる。

翌日だろうか、朝のNHKニュースの癌の最新療法の報道に思わず目が行く。埼玉医大に腫瘍内科ができ、築地の癌センター出身の腫瘍内科の先生を中心に内科、外科、放射線科の先生がチームを組んで治療に当たり、成果を上げているという。実際に他の病院で治療できないと言われ、終末医療施設のホスピス入りを薦められた50代後半の肝臓癌の女性患者が、抗がん剤主体の新しい治療を受けて肝臓全体に広がった癌が殆ど消え社会復帰し、元気に農作業をしたり、旅行したりする姿が映っている。埼玉医大なら知らない訳ではない。Sさんに電話する。

埼玉医大には寮で同室の1年先輩、文学部東洋史学科卒の須田沃さんがスタッフでいる。看護学校の歴史の先生もして●を羨ましがらせた？が、今は広報の責任者だ。丸木理事長の弟の憲雄さんとはアルバイトサークルの東大学力増進会で一緒だった。そういうご縁もあって埼玉医大の病院や校舎の建築のニュースがある度に毛呂まで足を運んだが、鉄筋コンクリートの現場打ちの建物で、高橋カーテンウォールではお手伝いできなかった。コンサルタントとして独立して病院の設備関係のクライアントも増えたので、今度はお役に立てる。日高に新しいキャンパスができるというので、丸木理事長、北澤準備室長他にクライアントのメーカーの担当者共々、挨拶させていただいたばかりだ。

Sさんに電話すると、自身はNHKの番組を見ていないが、東大病院に入院中の弟さんは見ている、埼玉医大を紹介して欲しいという。須田先輩に電話すると、番組を見た患者さんで病院は大混雑だが、東大病院の紹介があれば時間が掛かるが診て貰えるという。Sさんの弟さんは丁度その日退院で、さっそく東大病院の紹介状を貰って、埼玉医大の近くに宿を取り翌朝診て貰いに行くと言う。一番欲しかったのはこんなアドバイスだったのだろう。再度須田先輩に電話して先生に声を掛けてもらうことに。日高の新キャンパスでは今回のチーム医療を発展させた、統合医療のセンターを作るといふ。新しい試みに●も何らかの形でお手伝いできれば、望外の幸せである。

営業に行ってお馳走に

三鷹寮同期の群馬の癌センターの澤田君にも暫く会っていない、副院長から院長に昇格したし、滞っている病院建替えの話も聞きたい。顧問先のメーカーも是非院長先生に挨拶させてくれと言うので、一緒に太田へ。久し振りに会った澤田院長は随分スリムになっている。痩せたね！癌じゃないの？癌患者が癌の名医に軽口を叩く。親父が糖尿で亡くなったし、太り過ぎたんでダイエットしてるんだ、と澤田君。カバンには弁当箱が入っている。愛妻弁当だ、最高の贅沢だ。県の建築課の次長にも来てもらい挨拶、建替えプロジェクトの現況を聞き、メーカーのPRもさせていただく。

メーカーには先に帰ってもらい、仕事を終えた澤田君の愛車で、利根川を越えた先の埼玉の鮎屋へ。大衆という店の名前と裏腹にいいネタが並ぶ。ダイエットの割にはビールのピッチが早い。生きのいいネタをつまみに🍷もジョッキ4杯飲み干すが、澤田君は5杯も飲んでいる。面目躍如だ。最後に握りを2,3頼むが澤田君は頼まない。医者の不養生というが、チャンと計算しているようだ。それに引き換え🍷はこのところ気が弛んでいるようだ。ビール一杯の後は赤ワインをチビリチビリやっていたのに、少し調子がいいものだから、この頃はその場の雰囲気や焼酎や日本酒にも手が伸びる。

三楽病院の河野名誉院長には干場君！例外だねと言われてるんだけど、と話すと、ま、五分五分じゃないの、ただ個人にとってはゼロか百だからね、と澤田君。Sさんのことを話すと、東大病院も縦割りだね、外科と内科と連携取れてないんだとのこと。🍷も業者だからか、それとも商売下手で稼ぎの悪い🍷に同情したか、いいから、いいからと払いは澤田君。営業して、病気のアドバイスまで受けてご馳走になる。

アマダイ通信NO.46

(Tile fish network letter)

05年元旦

施術台の・・・

昨年3月大腸がんを手術、上行結腸を盲腸もろとも30センチカット、リンパ節9箇所も切除して3箇所に癌が転移していた。退院後は月に一度入院して5日間抗がん剤を点滴する治療を5回、その後は抗がん剤の5FUを朝晩1服ずつ飲み、隔月に1回血液検査と問診を受ける。経過は順調だが久し振りに肝臓と肺のCT(断層撮影)と大腸の内視鏡検査をということで、12月2日、3日に御茶ノ水の三楽病院に検査入院する。

初日の朝の血液検査でも腫瘍マーカーは低い数値で、午後一番の肝臓のCTも大丈夫。後はすることがないので、固形物さえ食べなければいいんでしょ、と我がまを言って外出許可を貰い、本郷の事務所で夕方まで仕事。粉フリカケ付きのお粥一杯の昼食では流石にお腹が空く。胃腸にいいというヨーグルトのLG21をコンビニで買って空腹を癒し、アポ取りの電話を掛けまくる。二日目の朝の肺のCTも異常なしということで、ヤレヤレ、後は内視鏡だけだ。患部は切ったし、腫瘍マーカーの数値からも、あっても小さなポリー

ブくらいで大したことはない。終わったら直ぐ事務所に戻ろう、病院出たらビール飲もう！
ツマミは何がいいかな？考えながらベッドに乗る。

ナースに言われるままに紙の穴開きパンツの尻を医師に向けてベッドに横たわると、干場さん、学力増進会って知ってますか？背後から先生の声。ええ、東大のアルバイト団体の学増でしょ、と返すと、私、理科にいた大島秀男です、と先生。入れる時少し痛いかも知れませんが後は大丈夫です。痛い時は痛いと言って下さいと、クリームを塗りズブリとお尻から内視鏡を突っ込む。鮮やかな黄色の液体と共に綺麗なピンクの大腸の画面がモニターを流れて行く。

社会の中村さんなんかはどうしてますかね？秋田で大学の先生してますよ。理科の南条君とは本郷で会ったりしますよ……。施術台で思い掛けなく会話が弾む。以前三楽病院にいたんですけど、今は飯田橋の警察病院の外科にいて、週一日金曜日だけ三楽で内視鏡やってるんです、と大島君。随分ラッキーな再会だったんだ。三楽の外科部長の阿川先生の弟子なんです。それじゃ三鷹寮で同期の群馬の癌センターの澤田院長知ってます？ええ、先輩ですよ！警察病院というと、今営業してるんですけど、建替え計画進んでますよね？私も医師として多少関係してるんです。警視総監の奥村君は駒場の中国語クラスの落第したクラスの同級生なんです。警察庁の局長からJR東日本の監査役に行っている坂東君も三鷹寮の同期生で、警視庁の総務部長してたんですよ。皆さんに色々お世話になってるんです。その間に内視鏡はのお腹の中を往復、無事体外へ。大丈夫です、何もありませんね、継ぎ目も綺麗ですよ！じゃその内一杯やりましょう！弾む心で施術台を降りる。

味一番だ！

内視鏡も大丈夫、後は薬を貰い、支払いして退院だ。たった一晩の入院なのに、一刻も早く出たい！ビールを飲みたい！人はかくも自由を求めるものか？昨晚もお粥一杯、朝、昼は絶食。下剤を2時間で2ℓ飲みお腹の中はからっぽ。何を食べよう？ここは御茶ノ水だ。突然、駅前の味一番のニラレバ炒めが思い浮かぶ。あれだ！寿司でも懐石でもステーキでもない、予備校時代よく食べた、ラーメン屋のニラレバ定食をなぜか思い出す。40年前に刷り込まれたか。レジのおばちゃんも婆ちゃんになって、以来中華丼もよく食べる。ライス代わりにビールを頼む。濃い醤油味がビールを美味しくする。明治大学の学食、師弟食堂でもよく食べた。明大は高層化したが生徒食堂は健在だろうか？

駿台予備校時代、時々三楽病院の前を歩いて随分苔むした味のある病院だな思っていたが、まさか自分が新装なった三楽にお世話になるとは。新装といってももう17年ほど経ち、建替え基金の話聞いたこともあるが、その頃は阿川先生が院長先生で？建替えのお手伝いをして恩返しできればと思う？！生きていれば。規模は大きくないがサービスもまあまあで、外来もよく混み繁盛している。三人の担当医で一番若い、多分研修医の女医のTさんも駿台、東大の後輩ということで、東大医学部出身の先生が多いようだ。

昔は東大というと駿台だったが、今は他の予備校も力をつけ、三鷹寮の後輩の永瀬兄弟の東進ハイスクールからも結構東大に入るようだ。永瀬兄には寮時代えらい苦労させられた記憶があるが、東大が落ちたのか、永瀬兄弟が頑張っているのか？一昨年、息子がアパートの家賃を払うのも勿体ないし、住宅ローンも安い、子供ができて広い所に移りたいということで、マンション探しに付き合う。その時、千葉の船橋で幾つか見たうちの一つが駿台中山寮跡地の建物で、驚くと同時に予備校の経営状況も気になる。そんな話を11月中旬の三鷹寮S41、42、43年入寮合同々期会で話すと、俺もあそこにいた、永瀬君や国交省の丸山局長など鹿児島ラサールの連中がまとまって中山寮から三鷹寮に移って来たなどと盛り上がり、一度同窓会をやりたいねという話になる。中山寮同期の仲間も結構知っているの、一度集まってインターカレッジの同窓会をすると面白いかも知れません。

Kさんは肝臓で、Nさんの旦那さんは肺から転移して

一ヶ月ほどの手術の時、4泊5日を五回繰り返した抗がん剤の集中治療でと、入院の回が重なると顔見知り、謂わば“戦友”もできる。品川のKさんは主治医の阿川先生が五反田のNTT関東病院から移ったので、三楽に来ているという。現役は退いて、品川に不動産も持ち悠々自適の生活を送っているが、大腸がんが肝臓に転移、再入院。抗がん剤を打っても腫瘍マーカーが下がらないと、副作用の坊主頭に手をやりながら、インターネットでアメリカの抗がん剤を調べていた。聞くと肝臓癌で亡くなったという。

乳がんを手術した高校の国語の先生のNさんも抗がん剤の副作用で帽子を被っている。帽子を取るともっと可愛いと思うが、そうは行かないのが女心。瀬戸内寂聴だって、“源氏名”の晴美とは裏腹に醜女だが、剃髪すると多少は見られる。僧衣で生臭さも隠せる。夏の診察で再会、教育大で一緒の高校教師の旦那さんとトルコを旅するという。もトルコに行くので、何処かですれ違うかもねと別れたのだが、入院直前に新年の欠礼の葉書が届く。亡夫54歳とある。急な別れだ。癌ではないな、事故か心筋梗塞、脳梗塞かと思ってお悔やみの電話をすると、癌だという。首が痛いと言っていたのに、忙しさに紛れて放っていたら、肺がんから転移した癌に頸椎が侵され手遅れだったの。肺がんは全然気がつかなかったのよ、結局トルコ旅行どころではなかったのよね。電話の向こうのNさん。

入院二日目の朝、阿川先生の回診を受ける。腫瘍マーカーの数値も低いし、下がっていますよ、問題ないですね、と嬉しい診立て。低くても0でないのは癌が何処かにあるということですか？健康な人でも数値が出るんですよ。統計上一定値以上だと癌だということに

なるんです、と丁寧に教えてくれる。そして三鷹寮の先輩で、通信読者のOさんの奥さんが乳癌で入院しているという。程なくしてOさんが顔を出す。通信見て、河野先輩（三楽病院前院長）にセカンドオピニオンを求めて、三楽に入院することにしたんですよと先輩。奥さんは少し落ち込んでいる感じだったが、直らない病気でないので、元気に闘病して、癌を克服して欲しい。まずは早期発見、次は運と気力だから。

アマダイ通信NO.47

(Tile fish network letter)

05年芽吹く季節に

◆さん悪運が強いですね！

26日ウブドからホテルに戻ると同行の社長に、日本に電話して欲しいとメモ。何か不幸か？それとも取引先の倒産か？電話するとインドネシアで大地震があり、大津波が発生、沢山の死者だという。スマトラ、ジャワ、バリと島が円弧状に連なる。津波が襲っても不思議はない。が、バリでは揺れの一つも感じず、海岸では若者がサーフィンに興じ、海縁のホテルのプールでは客が泳ぎ、バーでカクテルを飲み、デッキで日光浴して本を読む。昨日と同じ今日が流れていく。大腸癌は不運だったが、手術で患部は取り除けたか、元気にリゾートで泳ぎ、本を読めるのは運がいい。津波がバリを襲っても内陸のウブドへ行っていたから、命は助かっていた。プールにつかりカクテルをもらう。

12月の検査入院の結果を2月の検診で詳しく教えてもらう。輪切りの肝臓のCT画像を見ながら、三楽病院の主治医の阿川先生が丁寧に教えてくれる。癌細胞があると黒い影が見えるのですが、大丈夫ですね。この黒いのは隙間です。所々白く見えるのは脂肪です。脂肪肝ですよ。体調がいいので調子に乗って、暴飲暴食の生活に戻っているからだ。肺の方も問題ありません。白い影は小さい時に自然治癒した結核の痕跡です。年にとって体力がなくなるとぶり返す時もありますよ。帯状ヘルペスのようにね。週に1回は肝臓を休めてということで、どうにか週一休肝している。バリから帰って皆に悪運が強いと言われたが、強運を持続させるにはそれでは足りないということか。

それでも取敢えず癌の方は大丈夫だ。一昨年3月に大腸がんの手術で上行結腸を盲腸もろとも30センチ切り取り、そろそろ2年。大腸がんの場合なら術後2年で肝臓と肺に癌が転移しなければ、一応他の臓器への転移はないということになり、5年間何もなければ完治だ。2年は一つの区切りだから薬はやめましょうとか、治療に変化があるのかな？不安半分、期待半分で聞くと、半年くらいしたら又、CTを撮りましょう。診察は2ヵ月後で抗がん剤も出しましょうとのこと。ここまで順調に来たのだが、再発の可能性はあるのだ。どこかに潜む癌細胞を考えると医者と切れるのも不安だ。何時までも治療から解放されないのもすっきりしないが、ずっと共存しなければということなのだろう。

アマダイ通信NO.48

(Tile fish network letter)

05年紫蘭咲く

二年生きた。次の三年も生きてやろう！

直径5センチ大、ステージ - bの大腸がんを手術して4月で2年経過。上行結腸を盲腸もろとも30センチ切除、リンパ節も9箇所切除して3箇所に癌が転移。岩波新書の「胃がん和大腸がん」によれば、ステージ - bの大腸がんは「ほとんど治癒する見込みなし」。リンパ節に転移している場合の「b」評価が決定的。他の箇所にも転移する可能性が高い。幸い、今は肝臓や肺、脳など、他臓器への転移は認められず、癌に罹れば高い数値が出る腫瘍マーカーも、低いままで低下傾向だ。2年無事経過すれば、データの的には転移なしとなる。ここまで来て、何となく一息つく感じだが、無事5年経過しないと完治とは言えない。まだ朝晩一服づつ抗がん剤を飲み、隔月に一回問診を受け、二回に一回血液検査、半年に一回CTなどの画像診断という“闘病生活”が続く。あと3年の間に再発すれば、ほとんど治癒する見込みなしとの岩波新書の診立てが当てはまる。

週一、週末の休肝日を除き毎晩酒を喰らい、体重は“成長”一途。シーズンには同好の志を募り毎週スキーに出掛け、たまには下手なゴルフ。年末年始、五月の連休、お盆休みには海外に物見遊山。勿論仕事も普通にこなし、全国を営業行脚。調子に乗って最近休肝日にも我慢できず、飲んだ気分になりたくてノンアルコールビールで喉を潤す、とんでもない癌患者だ。ノンアルコールと言ってもアルコール分ゼロではない。最初は含有量0.1%未満のものをこれくらいならと、言い訳しいしい飲んでいたので、やはり美味しくない。今では0.5%未満のファインブルーが定番だ。

週一の休肝日も完全には守れない意志薄弱者だと、多少反省はするのだが、そのいい加減さ、やりたいようにやるのが、ストレスを軽減、免疫力を高め、癌にいいのだと言ってくれる人もいる。大まかでいい加減、プラス思考の性格が、病気で急に変わるものでもない。四六時中癌のことを考え、これやってはいけない、あれやらなくちゃと窮屈に生きるよりも、やれる範囲で、やりたいことを、やりたいようにやろうと思う。何よりも“病は気から”という。この調子で癌と“共生”、次の三年間も生きてやろう。駄目ならそれが天命というものか。

アマダイ通信NO.49

(Tile fish network letter)

05年ムクゲ咲く

GT92なんて普通だよ！

前回6月頭の診察で三楽病院の主治医の阿川先生から“干場さん！癌は助かってても肝臓を悪くして死にますよ！”と宣告される。以来、原則土日は休肝日にして、350ミリのノンアルコールビール2本だけで我慢している。その時指摘された数値がGTは昨年6月が53、10月が92、今年4月が69、総コレステロールが193、204、249である。基準範囲はGTが0-60、総コレステロールが130-220とあるから、確かにオーバーしている。それに大腸がんが転移するのは先ずは肝臓だ。それでは休肝日を週二日にします！と阿川先生に約束したのだ。

印刷屋の営業のK君が事務所に顔を出す。そう言えば去年肝臓悪くして入院してたんだ。お前、GT幾らだったんだ？尋ねると、3百を越えていて、今も2百以上あるという。それで酒止めてんの？畳み掛けると、毎晩飲んでいると言う。それであいつ調子悪そうだ、と少しは納得。三鷹寮同期の東芝の君の携帯メールのアドレスが目に入ったので、肝臓の数値幾らなの？とメールすると、480で断酒中で、ビールなんか世の中から消えてしまえと、恨み言を言う。不摂生なんじゃないのとコメントをつけて現状報告すると、長文メールできるじゃないという褒め言葉と一緒に、お前に不摂生なんて言われたくないよ！それはそうだ。

二人の数値を聞いて少し安心する。もう一人飲兵衛に聞いてみよう。緑の地球ネットワークの高見君に電話してみる。何しろ黄土高原でウオッカ並みの度数の白酒(バイチュー)で鍛えている。ひどい数値けどウコン飲んでからぐっと下がったよ、春ウコンがいいよと言う。対策も見えて来る。数値は極端に悪い数値でもないし、断酒に至る前の対策もみつかった。だが、弱った肝臓には癌も転移しやすいというハンデもあるから、取敢えず週二日の休肝日は守ることにする。

アマダイ通信NO.50

(Tile fish network letter)

05年芙蓉咲く

主人は誤診ではないかと言ってるんですが？！

ご主人の代理で？よく東大三鷹クラブの講演会に参加してくれる三鷹寮同期の、羽村の駅前で胃腸科医院を営む山川君のカミサンが、電話の向こうで言う。主人は干場さんの癌は誤診ではないかと言ってるんですが？小平の公立昭和病院で大腸癌と言われた時に、同じく三鷹寮同期で大腸がんの権威の澤田群馬県立癌センター院長の他に、山川君にもデータを持参して相談しているので、良く知っている筈。彼の知験からはステージbの大腸がん患者が、術後2年でピンピンして国内外を飛び回り、毎晩大酒を喰らい、シーズンには毎週日帰りスキーを楽しみ、たまには下手なゴルフもして色艶よく太っているのが不思議なのか？7月の三鷹クラブの講演会で元主治医で寮の大先輩、三楽病院の河野名誉院長

に話すと、誤診はないよ、僕が診たんだから、と全否定。

岩波新書の「胃がんと大腸がん」には「大腸がんステージ b・・・ほとんど治癒する見込みなし」と書かれているくらいだから、幸運な例外？なのかも知れないが、この二年半元気に生きている。それも隔月に1回問診を受け、そんなの効きやしないよと言う人もいるクラシックな抗がん剤、5FUを朝晩一錠飲み、四半期に1回血液検査し、半年に1回精密検査するだけだ。癌を宣告され、ましてリンパ腺にも転移しているとなると、他に転移している可能性も高い。食事療法だ、アガリクスだと、あらゆる手立てを尽くし、金もかけて癌と闘うのが一般的らしいが、それらしいことは何もしていない。

メナード化粧品の重役もしている三鷹寮の後輩の勝部君からいただいた靈芝と、JRの長谷川先輩からこれいいよといただいたアガリクスは飲み終え、学生運動の先輩の魚谷さんのカミさんが試しにと営業用のサンプル？を置いて行ったキングハナビラ茸を思い出したように飲んでいただけだ。能代高校同期で東北大の医学部出身の、秋田市仲通病院の放射線科の河田医師が、地中海ヨーグルトがいいよというのでカミサンに作ってもらい、蜂蜜と黄な粉をかけて毎朝食べていたのだが、元気過ぎるのに愛想を尽かしたか、今ではスーパーで買って来たアロエのヨーグルトとLG21が冷蔵庫に入っているだけだ。エノキ茸の味噌汁も間遠になった。

酔うが如くに生き、夢見るが如く死ぬ！

今や癌闘病？記の様相も帯びるようになったアマダイ通信を、3千部近く刷ってバラ撒いているので、色々情報も寄せられる。大分前に相談を受けたSさんの弟さんは東大病院から退院を通告され、癌センターに戻って抗がん剤の治療を受けたのだが、余命二ヶ月といわれた通りだった。副作用も激しく、苦しんでやせ衰えて亡くなったので、無理な闘病はさせずに、残された二ヶ月の命を思い通りに使わせてやればよかった。やりたいこともあったのにと、街でバツタリ会ったSさんに嘆かれる。

若い時の交通事故の輸血がもとの肝炎から肝臓がんになり、転移した膵臓がんで亡くなった学生運動の先輩Hさんも、豪放な物言いに似ず繊細な神経の持ち主で、死神の手を逃れようと手立ての限りを尽くしたようだ。従業員十数人の会社を経営していたが、癌宣告を受けた後は殆ど仕事はほっぽり出し、あらゆる療法を試みた。が、かけた労力とお金の割りには半年と言われた余命を数ヶ月伸ばすことができただけで、後には多額の負債が残されたようだ。

学生時代、アルバイトサークルの東大学力増進会で一緒に、現在はフリーライターとしてプレジデントなどで活躍、著作も多いK君も、と言っても🐟の学生時代は11年もあるのですずっと若いのだが、大腸がんをやったという。🐟癌の上行結腸より下のS状結腸で、初期なので開腹はせず、お腹に開けた三箇所穴から内視鏡を差込み患部を切除する腹腔鏡手術で済み、術後は抗がん剤も飲んでいないという。7月の能代高校在京同期会で杯を交わしたUさんも、大腸癌で7年前に手術したのとのこと。術後5年で何もなければ

完治と言われるので、無事癌患者卒業だ。

カミサンの友人の旦那さんは肺がんを手術。元気だが食事は胚芽米で、東に名医がいると聞けば東に、西に効くサプリメントがあれば西に走り、闘病が生活そのもの、お金も家一軒建つくらい使ったという。🐟は随分ローコストの闘病生活どころか、ソニー生命から一千万円の生前給付を受け黒字で、闘病資金に多少の余裕もある。が、癌を目の敵にしてかかりっきりになる、癌に残りの命を丸ごと捧げる余生は避けたい。20代から癌細胞は誰の身体にも住みつく。ゼロにはできない。体力低下やストレス亢進で免疫力が衰えた時、正常細胞を打ち破り急増殖する。専門医も不思議がるくらい例外的に生き延びているとしたら、天与の命、癌と共生、生きたいように生きようと思う。酔生夢死！人はいずれ死ぬのだから、生きることは死ぬこと、生は死を生きること。

アマダイ通信NO.51

(Tile fish network letter)

05年 黄葉む季節に

抗癌剤止めましょう！ゴッドハンドに感謝！

誤診じゃない？のと言ったと奥さんがいう、山川胃腸科医院の山川院長と、僕が診ただから誤診はないよという、元主治医の河野先輩も残ってくれた、9月末の東大三鷹クラブ第62回講演会の二次会。講師の詩人の天沢退二郎さんが2次会不参加で、🐟の癌に議論集中。晩酌で酔っ払って言ったのをカミさんが真に受けて干場君に言ってしまうと、先ず山川君からエール。

二人の名医の見解は“🐟の元気は奇跡に近い”で一致。大腸癌ステージ b の場合治癒する確率は山川君は四割、河野先生は岩波新書の胃癌と大腸癌のように見込み薄という。他臓器に転移する可能性の濃い二年目の終りくらいが山で、医者と薬を信じる、上を向いて歩くことが肝心と河野先輩。個々の患者にとっては常に五分五分であっても、データのにはやばかったんだ。それでも2年目の終わりの山は越えた。昨シーズンは12回だったが、今シーズンは顧問先の建研の石本さん、東作の市村さんと仲間も二人増えるから、できれば毎週、15回ほど日帰りスキーできれば三年目の山？も越す！飲み過ぎ注意で呑気な父さんを貫徹しよう！と、又酔っ払う。

十月初旬に二ヶ月振りに、前回の血液検査の結果を見ながらの雑談だけだが、三楽病院で主治医の阿川先生に診てもらう。腫瘍マーカー、肝機能、コレステロール、血糖、中性脂肪も問題なしだという。週二回、アルコール分0.5%のノンアルコールビールで我慢する、土日の休肝？の成果だろうか？三月の三周年で抗がん剤は止めにしましょうということに。転移なしの目安の二年目終了に続き、完治に又、一步前進したことになる。転移したリンパ節は三箇所だけで取りきれたのか？転移危険期間を無事経過したのはそう言う

ことだ。神の手を持つドクターに感謝！

最後には死にたくないな？！

診察の二日後、東京 Internet にも関係した IT 業界の草分けの一人で、この夏亡くなった東大全共闘の鈴木優一先輩を偲ぶ会に出席する。山本義隆東大全共闘議長と共に、全闘連（全学闘争連合）を名乗った大学院生のグループの中心的なメンバーだった。60年安保闘争を経験し、あと少しで研究者として旅立つ直前に、●も含め100名足らずの勢力で安田講堂に突入した、67年の卒業式粉砕闘争から東大闘争が盛り上がり、足が抜けなくなってしまった。そのまま卒業していれば研究者として名をなしていた連中だったが、研究室には残れず、電算機（パソコンではない！）と格闘、揺籃期の IT 業界を立ち上げて行った。

山本さんなど懐かしい顔ぶれが多い。66才と少し早い子供も独立しているようだ。大腸癌が肝臓に転移し、余命二ヶ月と言われ、物理学の本など四冊並行で読みながら亡くなる。直前の検診では何も無いと言われていたのに、腹部に痛みを感じて医者に行ったら、大腸癌が大きくなって腸閉塞を起こし、肝臓にも転移して打つ手がなかったようだ。早期発見が何より大事なのだが。それでも淡々と専門書や哲学の本を枕に死ぬのは鈴木さんらしい。偲ぶ会にはかつての仲間も沢山集まり、追悼文集も作られた。久し振りに顔を見る、同じ全闘連の仲間だった夫人の石川晶子さんもお礼の言葉を述べる。

同じ大腸癌でも生きる者と死ぬ者がいて、何によって左右されるのか？偶然か？それとも意志することか？誰にもわからないとしたら、よく働き、よく学び、よく遊び、潔く死ぬ、要するに自分らしく生きるということか。そして賑やかな出会いの場を最後に提供、遺稿集でも作ってもらって、と言っても●通信を編集するだけだから、直ぐ出来る。インターナショナルでも青い山脈でも、賑やかに“葬送の曲”を歌ってもらって黄泉の国に旅立ちたい、そのためには一番最後には死にたくないな、と変なことを考える。

アマダイ通信 NO. 52

(Tile fish network letter)

06年元旦

胃癌検診はできません！

大腸癌発見もこれがきっかけだ、小平市報の消化器癌検診の知らせを見て、胃癌検診を申し込む。サラリーマンだと定期的に健康診断を受けさせられるが、自営だとその機会がない。それでも丁度3年前、同じ検診の市報を見て応募、便潜血検査陽性の反応が出た。内視鏡検査を勧められて、上行結腸に径5センチの大腸癌が見つかり、お茶の水の三楽病院で、大腸を盲腸諸共30センチ切除した。リンパ節も9箇所取る。3ヶ所のリンパ節に

癌が転移し、きわどい状況だった。リンパ節に転移すれば、肝臓や肺、更には脳に転移している可能性が高い。幸い、他の臓器への転移は発見されないまま、転移の目安の術後2年間は無事経過し、データの的には転移なしということになった。

十月の診察の時に主治医の阿川先生に、保健所で胃癌の検診受けるんですが、腫瘍マーカーも低いままだし、やった方がいいですか？と尋ねると、受けた方がいいよ、腫瘍マーカーじゃ胃癌はわからないよ、と先生。マーカーは臓器別らしい。前の晩の飲食は九時までにして、朝食抜きで保健所へ行く。注意書きを読み問診表を記入。大腸癌の履歴も書き込む。お医者さんでいいと言われましたか？と受付。更に問診で、内視鏡だけでなく、バリウムも飲んでいいと先生に言われました？と突っ込まれる。いや、そこまでは・・・。何センチ切ったんですか？三十センチ。手術するとその腸が薄くなるんですね。腸が破れて亡くなった人もいます。それは大変だ、だけど・・・。それでは自己責任でしてもらうことになります！きつい駄目押し。三楽病院の診察券を取り出し阿川先生に電話。じゃ、今度胃の内視鏡しましょう。血液検査だけ受けて下さい。その旨伝えると、今回は血液検査してないんですがと、問診担当者。かくて何もしないで帰る。

十二月の診察時に血液検査で何もなければ、術後3年経過の三月で朝晩飲んでいる抗がん剤も止めることにする。以降は半年に一回診察を受け血液検査、1年に一回人間ドックに入りCTなどの精密検査と成人病検査をし、心電図だけ市の成人病検診でしてもらうことにする。毎晩飲んだくれ、太って色艶もいいので、悪友からはお前の癌はガンモドキだからかわれるのだが、“治癒する見込みは殆どなし”のステージ bからの“奇跡的”生還？であれば、全く医者や薬と切れてしまうのも心細い。免疫療法なんかどうなのでしょう？と。結果が検証されていないからね、博打みたいなものですよ、と阿川先生。エッセイストの絵門ゆう子さんなんか、免疫療法で助かっているようですが？乳がんだからですよ。お酒飲んで、ストレス溜めないのが一番ですよ。には心強い言葉だ。

ノンアルコールビールでも、ゴルフ長足の進歩？

主治医の阿川先生の指示を守り？土日は原則休肝日にしているし、三鷹寮で同期の坂東自朗、JR東日本監査役が警察庁交通局長の時に、飲酒運転の罰則が格段に強化され、ゴルフの後の一杯も駄目になった。昼もノンアルコールビールで我慢する。健康と安全には代えられない。汗を流した後の一杯を味わえないのは残念だが、能代高校同期の小野寺住友不動産専務やテクノバンオーナーの高松社長、丸井の金子店長などは80前後で回る。いつまでも130ではつきあってもらえない。月に1、2回はコースに出、早朝の打ち放しへも行くようにする。乗り換え案内のジョルダンの佐藤社長や、ソフトのアスキング女社長の青野さんがつきあってくれる。

癌保険で懐に入った1千万円を元手に買った赤いコペンをオープンにして、日焼けも構わず高速を飛ばし、埼玉の小川カントリーやGMG八王子へ。いつまで生きるかわからないから楽しい車をと、年甲斐もなく？思い切って買った赤いツーシーターだが、カミサンは恥ずかしいからと脇に乗ろうとしない。息子も黄色ナンバー（軽自動車）じゃんと馬鹿

にする。いつも一人で、助手席に乗るのはゴルフバッグやディスカウントストアで買った酒や、植木鉢というのは残念だが、軽なのに140キロまで出る。軽いので出足はすこぶるいい。ワンタッチで屋根がトランクに収納される。ガソリンはレギュラーで燃費もいい。車両本体で150万円と安い。背が低く小さいので洗車もあっという間。信号待ちで、何だポルシェじゃないじゃないか！と嫌味を言うひねくれ者もいるが、楽しい車だ。ダイハツが技能継承のためにと手作りするので、納車2ヶ月待ちだった。

無蓋のコペンを風切って飛ばす楽しさもあってか、ゴルフも面白くなった。10月に青野社長と組んだ小川カントリーでは午前は55で●●としてはまずまずだったのだが、午後は緊張感がきれたか64。それでも山岳コースで120切るようになった。調子に乗り、11月は二回コースに。月末の土曜日、佐藤さん、青野さんと一緒だったGMG八王子の厳しい山岳コースで前半55、後半56の111。その前、高松君や佐藤さんと一緒だった上野原のオリンピックカントリーの比較的フラットなコースで62、57だったので少し上手くなった感じだ。ティーショットも2百ヤードほど、大分正確に飛び、パットも大体2回で入る。グリーンに乗せるのに手間取るが、ピッチングを使うアプローチにも慣れる。管理担当から開発担当となり、住友不動産の代表権を持って更に忙しくなった小野寺君に、年明けに一緒にプレーしてもらうことになっているので、レベルの低い話で恐縮だが、佐藤さん、青野さんと回る17日の05年最後のゴルフでは百台に突入しておきたい。スコア誤魔化してんじゃないの？と口の悪い高橋カーテンウオールの小松常務とも、今年は是非一緒にラウンドしたいものだ。

アマダイ通信NO.53

(Tile fish network letter)

06年水温む頃

癌と保険の経済学

不慮の事故や病気、災害にもびくともしない程の資産を持つ人間には不要で、掛け金を払えない低所得者には無縁な生命保険は、リスクを広く分散し、中産階級の生活を保障するシステムとして、中産階級の増大と共に発展する。●●も大腸がんになって初めて、生命保険の恩恵に預かり、ソニー生命から1千万円の生前給付金と、他2社分も含め3百万円ほどの入院給付金、手術給付金が入り、大いに助かる。万一、余命半年とか、1年とか宣告されたとしても、保険金だけでどうにか闘病生活を支えることができただろう。自分の掛け金以外に、健康な方々の掛け金に支えられると同時に、●●が健康な方々も代表して、癌の犠牲になったとも言える訳だ。

会社設立時に、経費として税金から控除されるし、解約すれば退職金代わりにまとまった金が入るからと、かつての慶大全共闘ML派の仲間の村中君に勧められソニー生命に入った。子供が小さい間は死亡後の家族の生活保障として死亡保険金も大事だが、子育てに

金のかからない世代になると、病気・入院給付、所得保障が大事になる。配偶者がフルタイムで働いたり、住宅ローンに生命保険が付帯していれば尚更だ。それに死亡時保障保険には既に幾つか入っている。起業するとサラリーマンと違い、病気で働けなくなった時の保障がない。そこで働けなくなる可能性の高い癌、心筋梗塞、脳梗塞、糖尿病の4大成人病に罹った時に、死亡保険金相当が生前に給付される保険に入れてもらった。

大腸がんで盲腸を含め上行結腸を30センチカットし、9箇所切除したリンパ節の内3箇所に癌細胞が転移、ステージ b という厳しい病状だが、幸い命に別状はない。転移した癌細胞も手術で取り切れたということで、三楽病院の主治医の阿川先生はじめスタッフの皆さんには大いに感謝しなければならない。腫瘍マーカーなどの検査結果も異常なく術後3年経過しようとしている。この1週間で胸と腹部のCTを撮り、異常がなければ4月の診察を経て、朝晩服用の抗癌剤も飲まなくて済むようになる。癌になると新しく生命保険に入れず、団体信用生命保険加入が義務付けられる住宅ローンも原則組めないことになるが、無事3年経過して、生命保険に入れる、住宅ローンも組めるようになるのだろうか？

アマダイ通信NO.54

(Tile fish network letter)

06年藤の花咲く

CTスッポカすも卒業試験合格！抗がん剤卒業！

西武新宿線の車窓から🐟の目を楽しませてくれる小平の遊歩道、関公園、中野通りの桜は今年も綺麗でした。まさかステージ b の大腸がんで死の淵にあるとは思っても寄らず、アメリカのイラク攻撃のスペクトルショーにも食傷、傷口も完全に塞がらぬまま病院を抜け出し、多少の感慨を覚えながらノンアルコールビールを飲み、新宿御苑や本郷の三四郎池の桜を見てから、四度目の花見ができました。ノンアルコールビールにも微量のアルコールが入っていることを知って反省したのは昔、今年は大好きなサッポロ黒ラベルを手に白昼の新宿御苑で、飯田橋の土手では団塊ネットの世話人連と夜桜見物ができました。賞でる花があり、愛でる友がいて、酒があり、話弾む春が、来年も来て欲しいものです。

四半期後の四月の診察の前に、肺と腹部のCTを撮って異常がなければ、無事三年経過ということだから抗がん剤を止めましょう。そう言われて肺と腹部のCTスキャンの予約を入れて貰ったのに、腹部のCTの予約を忘れてすっぽかす。検査を忘れるほど体調がいいんだと言い訳しながら、頭掻き掻き主治医の三楽病院の阿川先生の診察を受け直し、腹部CTを再予約。検査の結果は肺は全く異常なし、腹部も脂肪肝除き異常なしとの看立てで、抗がん剤から解放される。

お蔭様で能天気ここまで来たけど、ステージ b の大腸がんで、危なかったんですね、と🐟。リンパ節はそれ以上取ると大腸、小腸が腐る限界の9個まで取り、そのうち癌が転移していた三箇所はビー玉大に腫れていたんです、その先の血管の中まではわからない

けど、と親指とひとさし指で を作る阿川先生。「大腸癌ステージ b、殆んど治癒する見込み無し」(岩波新書「胃がんと大腸がん」)からの生還だったんですね、と。先生のコメントはない。リンパ節が一つ、又、一つと癌に侵され、癌と闘って、際どいところで、命を守ってしてくれたんだ。が突っ込む。奇跡的にここまで来れたのは手術で癌細胞を取り切れたからなんですか？それとも抗がん剤が効いたか、免疫力が強かったからでしょうか？手術と抗がん剤と免疫力の総合の賜でしょう、笑ってられるのがいいんですよ、と先生。三年で抗がん剤から解放されても、完治と言われるまで後2年。天から貰った余生を、少しは大事に、楽しく、有意義に使いたいものです。

患者を生きる・癌と闘うのか？共生するのか？

折から元NHKアナウンサー、エッセイストで末期癌患者の絵門ゆう子さんが亡くなる。朝日新聞東京版に週一回連載される闘病エッセイを、同じ癌患者として毎回興味深く読む。享年49歳、訃報を聞いて、やはり亡くなったんだというより、ここまで生きられるんだということに感動を覚える。2000年に乳癌の全身転移が発見されここまで生きてきたのだから、大腸という局所にしか癌のみつかっていないはまだまだ死ねそうにない。ほんの2、30年前は不治の病と言われ、患者への癌の告知をすべきか否か、論争が続いたくらいだから、生きている間に治療法ももっと進歩するだろう。都合よく積極面を評価するが、無事3年を経て、いざ抗がん剤から解放されるとなると、ここまで来れたという安堵感と共に、薬を飲まなくても大丈夫だろうかと多少の不安も覚える。3月の上田埼玉県知事を迎えての団塊ネット(団塊の世代政策研究ネットワーク)の新春の集いで、久しぶりに会った編集者の小野典子さんが、タイミングよく「間違いだらけの抗がん剤治療一極少量の抗がん剤と免疫力で長生きできる！」(KKベストセラーズ、ベスト新書)を贈ってくれる。

一個のガン細胞は三〇回ほど分裂を繰り返すと約10億個にまで増大、ガンのカタマリ(シコリ)は、大きさが一立方センチメートル(一センチメートル四方)の大きさになる。一方、現在の画像診断では、どんなに精度の高い機械でもその百分の一の大きさ、1000万個になれば検出できない。CTスキャンでは画面に現れないの癌細胞も、身体はどこかで息を潜めて次の機会を窺っている可能性大だ。だから手術で患部を除去した後も1週間づつ5回入院して、抗がん剤の集中点滴治療を受けた。術後だけでなく術前に患部を小さくするために、或いは癌が進行していたり、広範囲に転移が進んで手術できないような場合にも、放射線治療と共に抗がん剤が投与されることがある。だが元々化学兵器として開発された抗癌剤もあり、多くの奇形児を産んだサリドマイドも抗がん剤として使われることからわかるように、強力な毒性を持つ。の場合は副作用らしい副作用もなかったが、通常は正常な細胞も痛めつけ、体力を弱める。本書の著者の癌の専門医は「四週間の間ガンは小さくなっていただけ、抗がん剤で痛めつけられた患者さんの身体の中で、治療後急激にガンが成長し、患者さんは一週間で死んでしま」うこともある、それでも抗がん剤は「奏効した」とされるが、一時的に癌が縮小しても副作用で体力を落とし、結果

的に何も治療しない場合と延命効果が大して変わらないのでは意味がない。いや日常生活から隔離された病院で、副作用で苦しめられながら亡くなるなら、その様な先達の犠牲の上に現在の癌療法の進歩があるとしても、その人の人生にとってはマイナスでしかないと言う。

そして「PS0（無症状で社会活動に制限なく、発病前と同等に振舞える）だった患者さんが、抗ガン剤治療を始めた途端に PS2（歩行や身の回りのことはできるが、時に少し介助がいる。軽労働はできないが、日中の 50%以上は起居） 3（身の回りのある程度のことではできるが、しばしば介助がいり、日中の 50%以上は就床）の状態に落ち込む。どの段階の患者さんでも、“標準的抗ガン剤治療”を受ければ、1～2 ランク、全身状態は悪化してしまいます。一方、現在、PS が 2 より悪い 3、4（身の回りのこともできず、常に介助がいり、終日就床）の患者さんでは、いわゆる標準的な抗ガン剤治療の適応から外されます。すなわち標準的な治療は行なわれず、治療を諦められている」とし、「使う抗ガン剤の量を少なくした場合、ガンに対抗する免疫力を削ぐことはなく、その健気な免疫細胞がガンに対しわずかでも抵抗し、少量の抗がん剤と協調して、ガンに対抗してくれる」。ごく少量では、免疫活性を向上させる薬剤」として「ブレオマイシン（商品名ブレオ）やサイクロフォスファミド（商品名エンドキサン）、パクリタキセル（商品名タキソール）をあげ、更にゲムシタピン（商品名ジェムザール）、ファイブエフユー（5-FU、商品名も同一）も可能性ありとする。その上で、「ごく少量の抗ガン剤治療は、存在しているガンに対し、それを縮小させることは考えず、“増大させないこと”だけを期待し、出来るかぎり“現状を維持”することを最大の目標としますので、ガンがすでに巨大なために患者さんが生活の制限を大きく受けている場合は、その治療の意味が薄れます。そのような状態にあるガンに対しては、その増大を抑制しても、ガンにより苦しめられる時間を延ばすだけですから、その場合は本意ですが少々多めに抗ガン剤を使い、悪さをしているガンの縮小を期待して治療します。うまくガンが縮小して、辛い自覚症状が取れば、後は増大しないことだけを考えます。可能なかぎり長く治療を続けられる方法に切り替えます。そのようにして現在も診ている患者さんは何人もいます。イレッサという画期的な薬のおかげで、昔ならば、とくに目を閉じているはずの肺ガン患者さんが、今も元気で生活しておられます。乳ガンに対するハーセプチンも同様です。新しい薬の開発がどんどん進んでいます。ガンマーナイフやサイバーナイフと呼ばれる特殊な放射線治療装置の進歩にも目をみはるものがあります。全身状態が悪くならず現状を維持してゆけば、画期的な治療法が出現しそれにめぐりあえる可能性も出てきます。患者さんの心理としては、髪の毛が抜けたり、吐き気に悩まされたり、何でも、“ハッキリと治療している”という実感があれば安心なのでしょうけれども、副作用と治療効果とは、全く関係ありません。むしろ同じ治療をしたのであれば、副作用が出ない患者さんの方が、治療効果は大きいように思います。」と結論づけます。

知り合いの編集者からいただいた「間違いだらけの抗がん剤治療—極少量の抗がん剤と

免疫力で長生きできる！」(ベスト新書)を長く引用しました。抗がん剤の使い方、代替療法との組み合わせ、無理やり癌細胞をなくすのではなく患者を社会生活できる状態でできるだけ長生きさせるのが治療の目的だ、という主張には納得するところ大です。

アマダイ通信NO.55

(Tile fish network letter)

06年夏椿咲く

抗がん剤から解放され、再びアマポーラ咲く国へ

三年前の三月に大腸がんを手術、抗がん剤点滴の管を引きずりながらブッシュのイラク爆撃をテレビで見て、四月半ばに退院。入院前から五月の連休は娘とスペインツアーを申し込んでいたが、五月からは毎月一回一週間入院して、抗がん剤の集中点滴治療を五ヶ月間受けることになる。恐る恐る？三楽病院の主治医の阿川先生にツアー参加の可否を問うと、意外にも即座にOKが出る。入院はスペインから帰ってからでいい、手術したからと言って旅行に支障はないという。一抹の不安を抱きながら、機中の人となる。

5月のスペインは暖かく、マドリードからバスで南下、地中海沿いを走り、バルセロナから再び機内に。沿道のオリーブ畑に、緑濃い小麦にまじり、真っ赤な芥子の花、アマポーラが目に焼きつく。この五月の連休、又、娘と一緒にギリシャに遊ぶ。パルテノンやデルフィの神殿、ミケーネの丘にも、黄色のミモザや白いコデマリに混じり、赤いアマポーラが鮮やかだ。生きて再びこの花にギリシャの地で会えるとは！ギリシャも地中海性気候、イタリアを挟んでバルカン半島とスペインは地続きで不思議ではない。が、同じ時期、かつてローマからポンペイへ走った時の記憶にはない。大病後のスペインであり、ギリシャだから、真紅に燃える太陽のように、目に焼きつくのだろうか？

五月の連休のナポリもグラナダも暑かった。アテネも似たようなものだろう。長袖を少ししか持ち合わせなかったアマダイには、雨のギリシャは肌寒い。ロシアほど寒くはないが、ウオッカに似て透明で、アルコール濃度の高い地酒ウゾーを、水代わりのビールと交互に飲みながら、ギリシャ料理を楽しむ。が、ロシア料理と飲むウオッカ、中華料理と一緒にする白酒ほどの味わいが無い。オリーブ油を多用するギリシャ料理に慣れないせいだろうか？

その時、ホテルのレストランの向かいの席で「干場さん！生きてたんですか？」と、女性の声。「うんっ？」と一瞬そちらを見ると、「中野です！去年の夏バルト三国ツアーでトイレを探してもらった！」と畳み掛ける。そう言えばタリンでだろうか、日本なら公衆トイレがみつからなくても、コンビニで借りられるし、パチンコ屋でも大丈夫、ヨーロッパでは何時もトイレで苦勞する。パチンコ屋を輸出すればいい、と思ったりしながら、一緒にトイレを探したことを思い出す。隣の席の旦那さんが懐しい顔でニコニコしている。「ホームページ見てもアマダイ通信が47号から更新されてないので、亡くなったと思っていたんです」と、再び奥さんの弾んだ声がある。

尻から鮮血！大腸がん再発？

ギリシャツアーが日を重ね、佳境に入った頃、トイレに入って用を足し、お尻の辺りに染みるような痛みを感じて、ペーパーを見ると鮮血で真っ赤に染まっている。大腸がん再発か？と、一瞬、頭が白くなる。大腸に癌ができると出血するので、検便でわかる。又、便が細くなったり、色も黒っぽくなり、下痢と便秘を繰り返すなど、お尻の調子は要注意だ。アマダイの場合は色艶、太さ、固さ共に立派なものだった。見た目には何ともなかったのに、小平市の消化器癌検診で便潜血検査陽性ということから、大腸癌がみつき、危うく一命を取り止めた。それがこんな酷い出血！

だが、隔月に1回は血液検査し、四ヶ月に1回はCTを撮るなど精密検査しているのに、そう悪くなる筈ないじゃないか？自分はこんなにピンピンしている。悪いのはお尻だけだ！多分、ウオシュレットのせいでヤワになった肛門が、環境が変わって切れたのだろう。家の二箇所のトイレも洗浄便座つき、事務所もウオシュレットつきだ。顧問先のオフィスビルでも結構ついている。レストランやホテルもかなりの割合でついている。新聞紙で処理していた時代、ゴワゴワの落とし紙の時代、エンボス加工の柔らかなトイレトペーパーの時代、紙は水滴を拭き取るだけになったウオシュレットの時代と、日本のトイレがお尻に優しくなり、痔の病からは大分解放されたが、日本人の過保護なお尻は逆に弱くなっているのだ。今度来る時は霧噴器のような携帯ウオシュレットを持参しなければと結論づけ、旅を続ける。

帰国後の三鷹クラブの講演会の二次会で、三楽病院の河野名誉院長に、お陰様で抗癌剤卒業しましたと挨拶。よくここまで来たね、澤田(群馬県立癌センター院長)君何か言ってた？と先輩。新病院建設中で、先日営業に行った時も、データはデータで、個人にとっては0か百だから、と言ってましたと言うと、言いようがないよと先輩。寮同期の山川胃腸科院長夫妻も同席。大腸癌と診断された時、色々聞いたけど、答えにくかったんだらうな？と聞くと、いやいや！と、にやにや。抗癌剤二年で止めて急に悪くなってなくなった人もいるけど、副作用なかったの？と先輩。全然とアマダイ。副作用が酷くて続けられず亡くなる人もいるよう。ステージ bと大分進行していても、「ほとんど治癒する見込みなし」(岩波新書「胃がんと大腸がん」)と本人に正直に答えられず、皆困ったんだらうな。そんなこととはつゆ知らず、体調がよいのを幸い、以前とほとんど変わらない生活をして来たのが、かえって良かったのかも知れない。「もう手遅れです」などとデータ通り言われていたら、アマダイ通信も55号まで続かなかったかも知れない。関係者一同にあらためて感謝いたします。

アマダイ通信NO.56

(Tile fish network letter)

06年のうぜんかずら咲く

知人・友人各位

朝晩は大分しのぎ易くなりましたが、まだ厳しい残暑が続いています。皆様お変わりありませんでしょうか？癌もどきだったんじゃないかと言われるほどに太ってしまった🐟で

すが、元気に“内外”を泳ぎ回っています。“世の中を変えよう”との青春の原点、“故郷のために”がようやく少し形をとり始めたかなという気がいたします。皆様にご報告すると共に、更なるご理解、ご協力を御願い致します。

名誉院長と主治医に快気祝いしてもらっても次の病？が！

殆ど治癒する見込みなし（岩波新書「胃がんと大腸がん」）といわれる、大腸がんステージ b の病床から生還、入院中から外出許可をもらい、低アルコールビールで花見し、退院後は夜毎大酒を喰らうなど、不摂生の割りには目出度く術後3年経過、この3月で抗癌剤から解放される。娘を同伴した5月の連休のギリシャ旅行は薬なしで、清々する。まさか癌宣告ありとは夢にも思わず、検診前に5月の連休の、娘とのスペインツアーを予約。迷ったが、三楽病院の主治医の阿川先生に恐る恐る聞くと、行って来たらと軽く言う。大丈夫なんだ、それとも冥土の土産にということかな？と薬持参でスペインへ。

大腸がんは術後5年経過して初めて完治ということになるが、取り合えず無事3年経過し、抗癌剤から解放されたということで、三鷹寮の大先輩で入院当時の院長の、河野三楽病院名誉院長が、主治医の阿川先生、平賀三鷹クラブ代表を誘って、快気祝いをしてくれる。その席で、取り合えず一難去ったようだが、数年前から血圧が高くなってと話す。どれくらいなの？と聞かれて、下が90、上が160位と答えると、名医が二人口を揃えて、それじゃ降圧剤飲まなくっちゃ、今度診察に来た時、薬出すよということになる。

友人に聞くと、結構降圧剤を飲んでいる者が多い。2, 3冊本も読む。名医二人に高血圧の診断を下され、カルシウム拮抗剤系の降圧剤を出そうという診立てをどうしたものか、4半期に1回の阿川先生の診察の朝、思案する。還暦での血圧90~160が薬剤で強制的に下げるべき高血圧か？脳耗塞、心筋耗塞は防げたとして、減圧により末端細胞へ酸素と栄養が十分に運ばれず、不足し、痴呆その他の病気になる確率が増えないか？飲んだ場合と飲まない場合で、生存率に差がないのではないか？降圧剤が必要として、減水剤系のベーシックなものでは駄目か？降圧剤は一度飲むと止められないのではないか？癌は助かって脳梗塞や心筋梗塞になっては仕方がない、と考えるが結論が出ない。前門の虎から逃げられたと思ったら、後門で狼が牙をむいている。身から出た錆なのだが。

アマダイ通信NO.57

(Tile fish network letter)

06年 山茶花咲く

湊君、癌で逝く・・・彼岸と此岸を分けるは何？

そろそろ夏服も今日までかという秋の日の夜、三鷹寮同期、一ツ橋大保健センターの湊教授の奥方から電話。9月初め脳出血で国分寺の駅で倒れ、危篤だという。急に驚かせる

よりはとのことで取り合えず電話したという。酒もたいして飲まないのにと、割り切れない思いがする。聞けば40歳前から肝炎が発症、それが肝癌に転化、更に脳に転移して、その腫瘍から出血して倒れたとのこと。余命幾許もないことを知りながら、最後まで淡々と仕事をしていたという。

同世代には肝炎で苦しむ者も多い。日本がまだ貧しく、衛生状態が悪かった時の感染症の予防注射で、先端をアルコール消毒しただけの、同じ注射針での回し打ちや、胎内感染もある。働き盛りになって発症、最近ではインターフェロンなどいい薬もあるが、全ての患者に効く訳でもない。湊君の場合は医者立場での感染も考えられる。たまに宴席を同じくしても、肝炎でと、杯を手にしない湊君だったが、ここまで悪くなっているとは知らなかった。●も家族や友人が具合が悪い時など、色々アドバイスしてもらい、随分助かったが、彼のために何もしてやれなかったのには忸怩たる思いだ。

この1年、三鷹寮の仲間でも1年下の自治省OBで筑波大の古川俊一君、41年入寮同期の市民活動家の豊島直人君、湊君と相次いで癌で亡くなった。三人ともアマダイ通信を送っていたので、彼らの苦闘を尻目に、●は暢気な「闘病記」を送り続けていたことになる。手にした彼らの気持ちは如何許りだったか？顔面から火の吹く思いがしないではない。同じ癌患者、何が彼岸と此岸を分けるのか？

タンの切れ悪く、声かすれ！咽喉癌？

大腸がん手術から3年経過、取り合えず一息つくと、血圧の高さが気になるが、上が160くらいで、降圧剤を飲むよう主治医にも勧められるが、飲む気になれない。それでも何もしない訳にはいかず、OMRONの血圧計を買う。朝測ると上が150前後から下が100前後で、病院で計るより上も下も10くらい低い。そして夜は朝より10前後低い。病院で測る方が高いから、白衣高血圧症だろうか？暫く測って様子を見ることにする。

先日本郷三丁目で大江戸線に乗り、政治学のO先生の隣に座ると、声がかすれている。初期癌で喉を手術とのこと。●もこの春からタンが切れず、花粉症のせいと思っていたが、花粉症が治まっても直らない。声もかすれるので大腸癌検診の時に、主治医の阿川先生に相談。何ともありませんよ、気になるなら喉飴なめ、よくうがいしなさいと言われたんですがと言うと、早く診てもらった方がいいですよ！とのこと。「癌も直る病気になったんですね！早期発見が肝心！」と二人で確認。

さっそく三楽病院の耳鼻咽喉科に行く。鼻腔から内視鏡を入れて喉を診てくれる。大丈夫ですよ！何ともありませんよ！声がかすれるのは声帯がやせたからです、とのこと。病気でないのは一安心だが、何のことはない、老化現象だ。声帯ではなく、お腹が痩せればいいのに！本人がまだ若い、元気だ！と書いていても、確実に老いているのだ。

アマダイ通信 N O.58

(Tile fish network letter)

07年元旦

マッサージで血圧下がらず、飲むために飲む？

12月頭、三ヶ月振りに三楽病院で大腸がんの診察を受ける。一週間前に受けた血液検査の結果を見ながら、主治医の阿川先生と雑談？いつもと同じように、肝数値が若干 overなのを除き異常なし。腫瘍マーカーも低く、正常値だ。次回二月の血液検査と、診察の予約を入れ、三月にCTを撮るということで、終わる。窓口で払った診察代が210円！3割が本人負担だから、0.3で割って700円が今日の診察代！一週間前の血液検査の時の本人の支払いが2千数百円。薬とか、検査や手術せぬと金にならないということだ！

大腸がんの手術から三年半以上、抗がん剤を飲むのを止めてから半年以上経つが、可能性の多い肝臓や肺、脳への転移の形跡はない。取りあえず癌は大丈夫そうだ。癌が大丈夫ということになって、高血圧が気になる。血圧計を買い、朝晩計ると、上が150~160、下が90~100、今の高血圧の定義からは立派な高血圧症だ。知り合いも結構降圧剤を飲んでいて、飲むのをすすめられる。ただ、ドンドン高血圧の定義の数値が下がり、それにつれ降圧剤の売り上げが増え、日本だけで年間1兆円近くになることに割り切れなさも感じる。降圧剤は一度飲むと止めるのは難しく、頻尿などの副作用もある。高齢になってからの高血圧は体の末端まで栄養や酸素を送るために必要な面もあり、無理に血圧を下げると、逆に栄養や酸素が体の末端にまで行渡らない結果、別の症状、とりわけ脳に栄養や酸素が不足し、痴呆症になる確率が高い、という学者もいる。

悩んでいると、肩こりを直すと血圧が下がるよというアドバイスを受ける。健康保険も利くという。取りあえず整骨院でマッサージを受けることにする。年内3、4回通って、駄目なら年明けから降圧剤を飲むことにする。12月1日の三鷹クラブの講演会で、杏林大心臓外科の須藤主任教授の話聞く。寮の同室で一年先輩だ。血管の強度、コレステロールと血圧の相関で動脈瘤破裂や脳出血を起こすようだが、コレステロールの数値は毎回の血液検査で問題ない。50%の確率で破裂する6センチまで動脈瘤が大きくなるのに数年かかるが、CT等の定期的画像診断でも幸い動脈瘤はない。今直ぐの危険はなさそうだ。

整骨院では二回マッサージを受けるが、余り凝ってませんねという意外な結果で、マッサージ降圧作戦は不発。周りも結構飲んでるし、最悪の事態を考えると、予防的にでも飲むのが得策かと、弱気になる。問題は生活習慣なのだが、「(酒)飲むために(薬)飲む」という愚かさ、わかっていて止められない愚かさ。仕方がない、三楽病院の生活習慣病診療所を訪ねる。ところが、高血圧だが取合えず食事で改善しましょうと、薬をくれない。混んでいるので、二月に再診察と栄養士との面談を予約する。(酒)飲むために(薬を)飲むと安直に考えていたのだが、それまで何もなしということになる。ただ、今直ぐ降圧剤を飲む程でもないということか？と、多少不安は和らぐ。ただ、血中のヘモグロビン値が高く、血液ドロドロ！水分を取る

必要ありと言われる。高血圧の原因は意外とこの辺りか？それと output を増やすために毎日小平駅までの往復 36 分を歩くことにする。いつまで続くか？

アマダイ通信 NO.59

07年梅の花盛りに

知人・友人各位

昨年 12 月 26 日、60 回目の誕生日で還暦。人生 50 年時代と違い、日本人男性の平均寿命も 80 歳。さほど目出度くもない。60 年も生きた割には大したことしてないな、世の中の役に余り立てなかったなという気がします。ステージ b 「治癒の見込みなし」の大腸癌も、完治といわれる術後 5 年まで、どうにか、1 年ほど。その分、これからの余生で、多少とも世の中の役に立てればと思います。二周目の人生も宜しくお願いします。

大腸がんとインプラント

かかりつけの歯医者で予ねてインプラント(人口歯根)を入れることを勧められていた。しかし、一本 40 万？二本で 80 万円もするという。癌保険で懐に一千万円入ったとはいえ、癌患者として何年生きられるかわからない段階で、コストパフォーマンスを考えると、踏み切れない。死んでも形見分けや相続できる訳でもない。抗癌剤の服用を止め、暫くは生きる目処が立った最近、ようやく手術する気になる。

小さい頃、お袋に歯磨いた？風呂入った？とよく言われた。今更悔やんでも遅いが、子供の頃の歯磨き嫌いが高がついた。周りがハッピーリタイヤする年になったというのに、せっせと稼ぐか？長生きして元を取る？しかない。あごの CT(断層撮影)の結果は歯茎の幅、深さとも申し分なし。歯周病でなく虫歯でなくした歯なので、インプラントは大丈夫という診立て。元の歯が大きく、上下の噛み合わせのため太いのがいいということで、想定より高くなる。2 本で 95 万円ほど。

おまけに耐用年数が十年、人口歯根に被せた人口の歯の耐用年数がそれくらい、歯根も折れる場合があるという。大枚の金をかけるのだから、火葬場まで持っていけると思ったのだが。70 歳で再投資できるだろうか？コストパフォーマンスも気になる。70 で、インプラントと一緒に死ぬしかないか？お茶の水駅前の杏雲ビル歯科。歯肉が切り裂かれ、ドリルで歯骨に穴が開き、スイス製、純チタンのインプラントが歯茎に埋め込まれていく。

飲むために飲む？

大腸癌は術後 4 年近く経過したとはいえ、リンパ節三箇所に移っていたので、肝臓や肺に移移の可能性大だ。大丈夫と思いつつ多少不安はある。普通は節制してとなるのだろうが、土日以外毎晩飲み、休日はゴルフかスキーのことも多い。年数回海外にも行く。夕

フなのか？生き急ぎか？あれしなくちゃ！これしちやいけない！と、下手に気を使って生きるより、生きたいように生きているのが、ストレスが少なく、いいのかも知れない。

気が小さく、線が細いからか？血管も細く採血はいつも苦労する。三ヶ月に一回血液検査し問診を受けるが、腫瘍マーカーは低いままで、肝数値の若干の over を除き異常はない。三楽病院の主治医の阿川先生との問診も雑談のよう。それでも 10 分くらいはかかり、診察料は 210 円！国民健康保険で 3 割負担だから、0.3 で割り 700 円！3 本取る血液検査が 2 千円だったか？薬とか、検査とか、手術とかしないと病院には金が入らないようだ。

癌が後一年ほどで、大腸癌完治といわれる 5 年経過となり先が見えると、今度は血圧が気になる。血圧計を買い朝晩計るが、高くて百 50~60 だった。肩こり直すと血圧が下がることがあるとのアドバイスを受ける。降圧剤を飲まずに済むならと、整骨院でマッサージを 3、4 回受けるが、効果はみられない。仕方ない、降圧剤を貰おうと三楽病院に行くが、こちらの手帳がいいですねと、新しい血圧手帳を渡され、二ヶ月先の診察日と栄養相談の予約を入れただけで終わるが、最近は時に百 70~80、瞬間風速で 2 百を記録。これでは高血圧の基準を下げたのは製薬業界の陰謀だ！と、決め付けてばかりいる訳に行かない。遂に二度目の診察で、降圧剤を渡される。(酒を) 飲むために(薬を) 飲む？ことに。

初歩的なカルシウム拮抗剤で、直ぐ下がる訳ではないとのこと。12月の三鷹クラブの講演会で、寮同室で一年先輩の杏林大心臓外科の須藤健一教授が、コレステロールと血圧の相関で動脈瘤破裂や脳出血が起こるが、動脈瘤が破裂する 6 センチ大までなるのに数年かかるという。コレステロール値は問題ない。他臓器への癌の転移を視るため定期的に上半身の画像診断をし、動脈瘤の兆候もない。幸い、今直ぐ命に関わることはなさそうだ。

アマダイ通信 NO. 60

(Tile fish network letter)

07年ハナミズキ咲く

免疫力落ちてますね！どきっ！・・・ヘルペスです！

花粉症の季節、鼻がグズグズ、目の周りも痒い。ここ数年、井草の土橋皮膚科で、ステロイド剤を処方して貰い良く効く。前回、三楽病院の生活習慣病センターの高血圧の診察の際にホルモン異常を疑われる。ステロイド剤が理由か？気になる。三月半ばまで薬なしで来たがそろそろ辛い。一週間ほど前から気になる右肩の「虫刺され」を見せると、帯状疱疹ですよ！免疫力落ちてますね！と土橋君。癌患者は一瞬落ち込む。

痛みもないんですか？熱もないですね！子供の時やった水疱瘡が神経に巣食って隠れて、大人になり体力が衰えたり、ストレスが多い時に、神経に沿って帯状の疱疹が出るのがヘルペス(帯状疱疹)です。高熱が出、痛みが伴うのが普通なんです。目に出ると失明する人もいます。稀に熱も痛みもない人もいますが、と不思議がる。週末 6 回目の日帰りスキーに行くんですが？と聞くアマダイに、大事取って止めた方がいいですよと、土

橋君。一日8mgのステロイド剤では血圧に影響しませんよ、飲まなくても血圧高いでしょ？と、こちらの懸念は晴れる。スキーは諦め、薬を大量に貰う。

帯状包疹は大事に至らず、一週間ほどで引け、3月末と4月初の日曜日、奥利根の宝台樹スキー場に日帰りスキー。スキー場脇のレストランで美味しい漬物、モツ煮、落味噌田楽で地酒をやり、手打ち蕎麦でやる。スキーの先を揃え、急斜面に前傾姿勢で突っ込む！還暦過ぎて、仲間を誘い毎週のようにスキーができるのも、キリリと身も心も引き締まる冬が好きなのも、雪国育ちで寒さに鍛えられ、毎日裏山でスキーしたから？誰に教わるでもなく我流で、綺麗には滑れないが、どんな斜面でも突っ込んで行く。己が人生と重ねる。入浴料三百円の、水上町賞諏訪温泉で一風呂浴び、気分よく帰る。

大腸がんの予後・・・松下哲先輩（三鷹寮 S29 年入寮）からのアドバイス

私は内科医ですのでステージ bの詳細は知りませんが、息子が中学生の時に肉腫を経験したりしたので、病理学者の智慧はよく知っている方ではないかと思っております。

大腸がんの手術に際しては、切除した大腸、リンパ節の標本では、がん細胞の大腸壁への浸潤度、特に切除断端のがん細胞の存在、腹膜側へ達しているかどうか、静脈への浸潤、リンパ管への浸潤、リンパ節への転移を病理学者は詳細に見ます。静脈への浸潤があれば、がん細胞が血流に乗って遠方の肺などの臓器に転移する可能性があります。リンパ管への浸潤は通常そのリンパ管の下流のリンパ節でがん細胞は捉えられ、更にその下流のリンパ節に転移がないとすると、リンパ管経由のがん細胞の転移はそこで止まったと判定されます。このような記述や予後の説明は、通例しないでステージ分類とか、リンパ節転移の数を患者さんには生存率を含めて知らせています。しかし上述のように詳細に見た場合、同じステージでも内容によって、予後に関して微妙な差が存在します。なお病理標本は数ミリずつの切片で観察しますので、その間にある組織所見は見逃す可能性があります。がん専門の病院あるいは、病理学者が常勤している病院を除いて、普通の病院では病理検査は外注することが多く、送ってくる返事も上述のようなステージ分類、リンパ節転移数プラスいくつかの記述に留まることが多いです。

既に術後4年経って、血流に乗った遠隔転移もなく、リンパ節転移は全て切除されていて（その下流のリンパ節には転移は無かった）がんは残っていない可能性が強いように思います。またがん細胞が残っていても、免疫の力が強ければ、化学療法の効果もあって、再発しないことがあると言われてます。しかしこういうことは確率的なこと、絶対的ということではありません。五年経つと再発がなくなるのではなく、一応五年が生存率の参考にされています。なお二次がんと呼んで、がんを経験した人は別のがんを新たに生じることがあり、胃や肺、それに大腸などの検査は毎年されたほうがよいです。大腸がんの友人の場合は胃がんがその後発生し、これは粘膜内に留まるステージで手術できました。

アマダイ通信NO.61

(Tile fish network letter)

07年権咲く


知人・友人各位

本通信もお陰様で“還暦”を迎え、臆面もなく勝手なものを送りつけ、などと思いながらも、人生同様、今号から再スタート。宜しくお願い致します。

身も心も元気でいられるのは、あと10年かな？15年かな？若い時は人生の残り時間なんて考えもしなかった、などと思いながら、逆に、子育ても終わり、ようやく経済的に多少ゆとりもでき、時間も比較的自由に使えるのだから、多少とも人のため役に立ち、自分も楽しみたい。残りの人生を、皆さんと共に更に充実したものにできればと思います。

癌はアルコール消毒が効く？鈍感力の賜物？・阿川先生完治宣告！

五月連休明けに血液検査、翌週、三月に受けたCTスキャンの画像も見せて貰いながら、三楽病院の主治医の阿川先生の診察を受ける。血液検査、CTともに何の問題もないとのことで、あらためて先生から大腸がんの「完治」を宣告していただく。大腸癌は、術後無事5年経過すれば一応完治とされるが、一年早い完治宣告。

癌宣告されると一般的には、病院で受ける外科的治療や抗がん剤、放射線等の治療の他に、免疫力を高め、癌を克服しようと、サプリメント等を探し求めるが、は殆ど何もしなかった。それどころか、土日を除きほぼ毎晩外で酒を飲み、アルコール分0.5%のノンアルコールビールを2~3本飲んで、休肝日と称している土日さえ、たまには肝臓を休めなさいという、阿川先生の指示を破り、付き合いでまともにお酒を飲むこともしばしば。

休肝日もろくに守らずお酒を飲むことが、体にいい筈がなく、ましてアルコールで癌が消毒される訳でもあるまい。飲みたい時に美味しく飲む、体に悪いのだから絶対飲んではいけない！と決めて、無理に休肝するストレスから解放される「規範意識の鈍さ」、「鈍感力」が、取敢えずの転移、再発の防止に力を発揮しているのかも知れない！

二ヶ月で二キロ減量も血圧下がらず！栄養士に見放される！

三月の三楽病院の生活習慣病センターの診察で降圧剤をもらい、栄養指導も受ける。朝のベーコンエッグをハムエッグに、パンにつけるマーガリンはママレードに変え、麺つゆは飲まず、毎食野菜を食べる約束は果たす。更に昼は松屋の？牛丼よりは麺、カン水で塩分多いうどんより蕎麦を多くする、夜は脂肪の多い中華、焼肉よりは和食を増やす。二ヶ月後の次回までに、シャツとズボンをはいて76キロの体重を、二キロ減らすことに。

どうやって体重減らすか？栄養指導は尊重、自宅から最寄駅まで片道18分は自転車を捨てて歩き、夜の飲酒後のラーメン等の夜食は止める。体重は、朝の起床時に下着つけて72キロと、多少は減量が進むが、血圧は上が150前後、下が90前後と余り下がらない。担当医は朝1回の服用では24時間効果が持続しない、朝夕飲むようにしようというが、夜は

忘れることが多いので 1 回にし、初歩的な降圧剤のプロプレス 8^{mg} 1錠から、カルシウム拮抗剤のオルメテック 20^{mg} 1錠に変える。




栄養指導もからめ手から攻められ、段々外堀が埋まって行くが、結局は飲酒の回数と量の問題。飲めばカロリー摂取も増え、ツマミも食べるので、塩分とカロリーが又、増える。栄養士さんの方も話すことがなくなり、栄養相談は止め、降圧剤だけもらうことに。わかってはいるけど止められない！結局は本当のところはわかっていなくて、事態が急展開して慌てて、その時は手遅れ？なんて馬鹿なことになるのだろうか？

アマダイ通信NO.62


(Tile fish network letter)

07年黄花コスモス咲く

癌完治でも保険入れませんか！？

学校給食の栄養士のカミさんが昨年、に鞭打ち働かされた？30余年の勤労人生を目出度く卒業、2千万円近くの退職金を手にする。アメリカほど酷くはないが、カナダやヨーロッパ、キューバほど医療保険が手厚くない（マイケル・ムーア監督の「Sicko」参照）日本では、癌再発の暁には70歳まで毎月20万円ほどの支払いが残る、名義の住宅ローンを返していけない。繰上げ返済に半分回して！と懇願するも一顧だにされない。自分の老後の安心のためにと、幾つか銀行を廻り運用の話聞くが、よくわからないという。そこで、に生前給付の保険金を一千万円貰えるようにしてくれた、かつての「慶大共闘ML派」の仲間、SONY生命の村中君に、元金保証の一時払い変額年金保険の見積りを貰う。

ついでに癌完治の、術後五年になったら僕も新しく保険に入ると言うと、干場さんは入れませんよ！履歴残ってるから！とにべもない。柳の下の二匹目のドジョウを！という訳でもないが、術後5年経過で大腸癌完治と言ってもせいぜい「半治」というところで、リスクが大き過ぎる、死ぬ確率が高過ぎるということか？それならリスク計算して掛金を設定すればいいと思うのだが？他人の懐を当てにしてリスクを分け合うのではなく、死ぬまで働け！働けなくなったら死ぬ！ということか？

ところで村中君のお客で生前保険金貰った人は何人いるの？と聞くと、五人いるという。その中での1千万円が、一番金額が大きかったらしい。個人で入る場合、給付金額が大きくなると、掛金も高くなるので、受取金は精々2、3百万円だという。会社だと損金（経費）に計上できるので高額な掛金も支払えるが、某会社の役員は会社に七百万円入ったが、癌になった自分は十万円しか貰えず、ぼやいていたという。

アマダイ通信NO.63

(Tile fish network letter)

07年八タ八タ漁解禁？

知人・友人各位

今年も残り少なくなりました。皆さん元気にお過ごしでしょうか？大腸癌も主治医から早目の完治宣告をいただきましたが、還暦を過ぎると、あらためて人生の残された時間の長さ、短さを感じます。友人に誘われ、木材産地の故郷能代に、おが屑を使った搬送用パレットを製造・販売する会社を立ち上げようと、昨年から格闘、還暦からの起業を楽しんでいます。故郷の町興し、森林資源の有効活用と再生に役立つことができれば、幸甚です。

生かされて・・・

12月8日名古屋へ出張の折り、滋賀の草津に足を伸ばし、知人のNさんを見舞う。背中が痛いと言ったら、心臓の弁が石灰化し、半年以内に手術をしないとされたという。そこで手術例の多い800床の大病院、草津総合病院の院長に執刀してもらおう。

メスで胸骨を縦に裂き、万力で押し広げ、血管を切断、人工心肺に繋いで人工的に生命を維持、胸骨の裂け目から心臓を取り出す。取り出した心臓はまな板の上に置かれた焼鳥のハツのように、手術台の上で切り裂かれ、石灰化した弁は取り外し、人工の弁に置き換え、再び胸骨の間から体内に戻す。血管も1ミリ間隔で縫い合わせ、引き裂かれた胸骨も合わせ、ワイヤで縛り元に戻す。胸の縫い目だけを残して8時間の大手術は無事終了、心臓は自力で再び鼓動を始め、Nさんは生き返る。

術後2週間経過して元気になったNさんと、昔なら二人とも生きてなかったね！と生かされていることを確認。思えば●も大腸癌を手術して4年半。三楽病院の主治医の阿川先生からは4年経過時点で「完治ですね」と言って頂いたが、病巣は大腸から更に周辺のリンパ節3箇所に移り、「殆ど治癒する見込みなし」(岩波新書「胃がんと大腸がん」)という、大腸癌ステージ bであった。或いは変わらなければいけないのではないかと思いつつ、術前と何ら変わらぬ生活が出来た自分に、己の悪運？の強さと、医学の進歩、幾多の先達の努力、スタッフの苦勞、社会システムの進化等を思い、その全てに感謝する。失った筈の命、この世に存在しない筈の自分であれば、多少とも人の役に立ち、他人との関係を確認しながら生きて行きたい！その思いを強くする。

あと何年生きる？難しい老後設計、姥捨て山は今も？

取りあえず命拾いすると、次は生かされた余生をどう生きるか？何年生かされるか？が問題になる。子供の教育や住宅ローンの支払いと違って、エンドがわからないのが難しい。不幸中の幸いで、50歳から定年のない仕事を始めたので、人の役に立てる限り働こう、働けば収入もついてくる。死ねば生命保険も多少入り、住宅ローンもチャラになるからいいじゃないかと思うが、カミさんにとってはそう行かないらしい。

病気になって直ぐ死ねればいいけど、寝たきりにでもなったらどうするのよ？ハッピーリタイアし、好きなことをしてルンルンでいるが、収入がなくなったので、金蔓？の●が稼ぎもなく寝込んだりすると困るらしい。少しは僕も役に立ってるんだ！

アマダイ通信NO.65

(Tile fish network letter)

08年春一番吹く


知人・友人各位


厳しい寒さが続きますが、皆様、如何お過ごしでしょうか？日本人の半分が罹り、死因の3分の1を占める癌を患って5年、どうにか6分の1の生き残り組に入ったようです。この間、3千人の本通信読者の何人かも、癌で亡くなりました。統計上は読者の半数が癌を患い、千人は癌で亡くなります。私の場合も一回戦が終わっただけです。

余り「模範的患者」ではないかも知れませんが、二回戦が始まって癌にかかりきる、「癌と戦」い、癌に振り回されるようなことはせず、残された時間を如何に生きるか？如何に人の役に立つか？を考えて生きたいと思えます。

あれから5年、鈍感力の賜物？

小平市の消化器癌検診で便潜血検査が陽性だと言われ、5年前の2月、肛門からカメラを入れる。径5センチほどの腫瘍が上行結腸にあり、盲腸もろとも大腸を30センチ切り取り、周囲のリンパ節も9箇所切り取る、5時間以上の大手術。御茶ノ水の東京都教職員共済組合三楽病院の主治医、阿川外科部長からは4年経過時点でもう完治ですと、早々と「三下り半」を突きつけられていたのだが、この3月で術後5年経過、ようやく名実共に完治、とりあえず大腸癌と「おさらば」と言える状態になる。

生命保険会社に出す診断書に、「大腸癌ステージ b」とあり、先生に聞いても教えてくれない。岩波新書の「胃がんと大腸がん」を読むと、「大腸癌ステージ b・・・ほとんど治癒する見込みなし」とある。データ上は余命いくばくもないなどとはつゆ知らず、点滴の管が外れると外出許可をもらい、退屈しのぎに病院から本郷の事務所に出勤。退院後は術前と同じように仕事に復帰、夜の付き合いも同様にこなす。術前に予約していたからと、抗癌剤の集中治療を延ばしてもらい、5月の連休に娘とスペイン旅行も。そんな暢気な父さんは折からのイラク情勢が気になり、ブッシュのイラク侵攻も、鎮痛剤や抗がん剤の入った点滴のスタンドを引きずりながら、病棟のテレビで見続ける。ブッシュのイラク戦争も、の癌も、当初の見立てとは全く違う展開になってしまったのだが。

旅行から帰ると、阿川先生がようやく教えてくれる。ステージ bは腫瘍が大腸の組織内でようやく留まっている段階、cは大腸の壁を突き破った段階で、aは他の臓器に転移していない段階、bは転移している段階。～（手遅れ）よりもaかbの方が問題で、の場合は切り取った9ヶ所のリンパ節のうち、3ヶ所に転移していたので、bなのだ。

肝臓、肺、脳の順で転移する危険性があり、肝臓が一番危ない、肝臓に負担をかけないように、休肝日を作りなさいという。その指示は中々守れないが、腫瘍マーカーも低い数値のまま推移、今のところ、CTや内視鏡でも転移や再発の兆候は見られない。転移して

いたのはリンパ節3箇所だけで、一回の手術で全部取り切れたということか。阿川先生はじめスタッフの皆さんには感謝してもし切れるものではない。

アマダイ通信NO.66

(Tile fish network letter)

08年花瑞樹咲き、藤ほころぶ

知人・友人各位

今年も花を賞でることができましたが、皆様は如何でしたでしょうか？5年前に大腸がんを手術。まさかリンパ腺に3箇所も転移し、bという殆ど治癒する見込みがないステージだとは露知らず、外出許可を貰い、新宿御苑で「願わくば桜の花の木の下で」などと、暢気にノンアルコールビールを飲んでいました。アルコール分ゼロだと信じて。

あれから5年、奇跡的に？癌も完治、本通信も号を重ね、部数も3千を越えました。物好きな！と思いながら、今更やめられず、もう焼けくそ！？ズッコケ人生の笑いを提供した上、人脈作りと営業に多少は貢献しているようです。食べて行ける内は続けようと思います。宜しくお願い致します。

アマダイ通信NO.67

(Tile fish network letter)

08年 紫陽花の盛季に

癌再発？・・・内視鏡でポリープ取る

4月11日の三楽病院の主治医の阿川先生の診察で、大腸癌の手術から5年経過し目出度く癌が完治した。5月連休明けの12日の月曜日に、大腸癌ステージ b (殆ど治癒する見込みなし・岩波新書「胃がんと大腸がん」) から生還記念？の内視鏡検査をしようということになる。家の近くの公立昭和病院で大腸癌が見つかった時の最初の内視鏡検査は、確か前日9時以降飲食禁止で、当日朝に下剤を大量に飲んだ記憶があった。そこで前日の日曜日は夕方まで特にすることもないだろうと暢気に、1月のスキーでの左足ふくらはぎ三頭筋一部断裂以来最初の、ゴルフの予約を入れていた。

ところが、台風接近に伴う大雨と、足場の悪い所で又怪我をすると大変との弱気からゴルフを止め、少し気になって病院の指示書と下剤を慌てて探す。大きな袋に入った下剤はみつかると、指示書は会社にでも置いてあるらしく、みつからない。今回は下剤の他に何と検査食も3食入っている。ゴルフということで、6時頃には早々と朝食を済ませていたのだが、9時過ぎに三楽病院に電話で問合せ、慌てて検査食を食べ直す。翌朝、電車の中で催したらどうしようと心配しながら、2リットルの下剤を頑張って飲む。幸い、トイレ

に入る度に便器の中は鮮やかな黄金色に変わり、ドンドン色が薄れて行く。これなら大丈夫。小平から御茶ノ水まで、1時間かけて電車を乗り継ぎ、三楽病院に向かう。

お尻に穴の開いた手術着の尻を医者の方に向けると、クニクニと尻にゼリーが塗られ、先ずお医者さんの指が、続いて冷たい感触の内視鏡が尻に入って来る。小さなポリープがありますね、とお医者さん。さては癌再発か？一瞬頭をよぎるが、医者の声は明るい。取ってしまいますからと、お腹にひんやり電極板が当てられ、一瞬の違和感と共に、ポリープは切り取られ、可愛いの取りましたよ！とお医者さん。

可愛いとはいえ、見事ポリープがあったのだ！大腸癌再発の可能性もある。手術したので、取合えず一週間は、スポーツと飲酒は止めて下さいと言い渡される。禁酒令解けないとビールも駄目か？再発なら余命幾許もないということになる。取合えず当日はいい子して家に帰り、ノンアルコールビール2本で我慢する。ポリープの良性か悪性か、大腸癌の再発かどうかは、病理検査と30日の阿川先生の診察を待つことになる。

翌日もいい子？酒席で酒飲まず！CTで尻まで熱く！

再発なら余命幾許もなし？取合えず内視鏡でポリープを取った翌日もいい子をする。新会社(株)ウッドプラスチックテクノロジーの取締役会中に、内視鏡の後遺症でお腹ゴロゴロ。柄になく少し気になり、焼肉屋での懇親会ではウーロン茶をチビリ、チビリ。余り盛り上がらない。再発でもポリープ段階で切り取れば大事に至らない筈。もぐら叩きみたいなもの。できたら都度、切り取ればいい。大腸は長いから、まだ数回は切っても大丈夫！？最先端のPETと重粒子線の照射療法や、手術とX線照射、抗がん剤投与を組み合わせた統合治療等、打つ手はまだ色々ある。癌も今では早期に発見し、打つ手を間違えなければ直る病気だ！闘病にかかりっ切りで、病に振り回されるのではなく、人の役に立ちながら最善を尽す！人はいずれ死ぬ！と意気軒高でも、多少気になるのは人の性？

翌週月曜9時、お茶の水の三楽病院で腹部のCTを撮るので、7時半に家を出て満員電車に乗る。山手線で肩から離れたカバンが宙に浮く。新宿では中央線快速電車を避け、総武線の各駅停車に。少子高齢化とはいえ、まだまだ首都圏の過密は続く。上半身ボタンのない検査着に替え、ベッドに横たわると、真ん中に丸い穴の開いた機械が音を立て回り出す。左腕の細い静脈がやっとみつきり、造影剤が全身に隈なく周り、尻まで熱くなる。機械の大きな穴をお腹が何度か行き来し、息を吸って！止めて！を数度繰り返し、撮影は終わる。

火照る体を早く冷まさなくては！生ビールで造影剤を体外に早く出そう！？会食しながらの打合わせをいいことに昼からビール。ポリープを切除、1週間はお酒を控えて下さいと言われたが、アルコールで血管が拡大して大腸の傷口から出血するのを防ぐのが目的だから、血便が出ている訳でもない、禁酒宣言は解除だ！と医者に成り代わり禁酒解除宣言し、休肝も三日坊主で終了済。1週間のスポーツ禁止も、個人差がある、誤差の範囲内だと1日早く解除、腹部CT前日の日曜日に、4ヶ月振りにゴルフクラブを振る。

更に翌週の月曜日胸部CT、金曜日に主治医の診察を受ける。幸いポリープは良性の5

ミリ程の腺腫で、できても定期的に内視鏡で取っていけば問題ない。血液検査もCTの結果も問題なし。大腸癌の再発ではないと胸を撫で下ろす。ソニー生命の村中君に電話すると、ポリープを手術すると、1日1万円の入院・手術保険に入っているので日帰り手術でも10日分、10万円の保険金が出るという。他2社からも1日5千円の10倍ずつ出る。体を痛めて保険金を貰っても仕方がないが、結構な掛け金を払っている、ありがたく頂く。

夏服寸法直し、メタボ対策のゴルフ？ようやく再開へ

5月の連休が終わると、衣替えの季節。夏服のパンツに足を通してみるとウエストがきつい。全部チェック、スーツ6本と替ズボン1本のウエストを、近所の直し屋さんに93センチに広げてもらう。男の85センチ、女性の90センチ超はメタボリックシンドロームだと大騒ぎの折、男で90センチを軽く超えてしまった。学生時代のウエスト76センチ、体重61キロが懐かしい。何か運動しなくてはいけないが、ただ歩くのも単調だ。スキーで足を怪我して以来、5月半ばに4ヶ月ぶりにゴルフを再開する。

土曜夜、雨が強く降り心配したが、朝、娘と家を出る時は小降り。小川カントリーに着くとほとんど雨は上がり、午後は時折陽も射し蒸し暑い。結構陽に焼ける。足の怪我は気にせずプレイでき、スコアも53、56と百台でマズマズ。足場も悪いから、藪に打込んだら無理に球拾いはせずと、ロストボールを沢山持って行ったのだが、少し増えてしまう。翌週日曜もゴルフ日和、55、46のトータル101で、自己ベスト。この分だとスキーも大丈夫だと、少し自信を持つ。

4月の血液検査でGTPが初めて三桁の120になったのは要注意だが、それ以外の血糖やコレステロール値も問題なしで、正確にはメタボではないが、身長168センチで、ウエスト90センチ超、体重70キロ超は問題だ。体内に入れるカロリーと出すカロリーの差が問題だから、口が寂しいのが嫌なら、使うカロリーを増やせばいいと考えるのが、酒飲みの常だ。そのためには先ず歩くことだと、松葉杖を捨ててから使っていた自転車を止め、小平駅まで歩くことにする。タクシーも極力使わないようにする。靴も水虫対策のために皮底の靴を履いていたのを、怪我した足のふくらはぎが腫れる感じがするので、ゴム底の靴に替える。

売る内容は若い時の“革命”から様変わりしたが、根っからの営業マン、平日は電車や地下鉄を使い結構歩くが、土日は図書館で雑誌を読むことが多い。一人ただ歩くのも、群れるのが好きな意志薄弱人間には辛い。幸い怪我也治ったことだし、一日はゴルフかスキーで体を動かすのを心がけよう。8万円で会員権を買った小川カントリーなら、小平から所沢インターまで30分、嵐山小川インターまで20分、高速降りて10分の、1時間で行ける。赤いコペンをオープンカーにして飛ばすが、軽自動車なので高速代も千50円と安く、ガソリン代も大してかからない。キャデイなしだと食事しても7千円。仲間と緑のグリーンをワイワイラウンドして、体を動かして運動、1万円も使わないのだから、パチンコで時間と金を消費するよりは有意義だ。メンバーになってくれた三鷹寮で一緒の農水省

OBの小畑君や文科省OBの伊勢呂君、それに自治省OBの片木早大教授、学生時代のアルバイト仲間の乗換案内のジョルダンの佐藤社長もよく付き合ってくれる。ゲストでも土日、食事つきで1万5千円ほどでプレイできるので、更に仲間を募りたい。

アマダイ通信NO.68

(Tile fish network letter)

08年百日紅咲く

知人・友人各位

玄関先で先日、蛇を見掛ける。緑がかった茶色で細い体をくねらせ、植え込みに消える。癌を手術して退院したその日にも、隣家との間の塀の上に、青大将だろう、大きな蛇が寝そべっていた。その後どうしたか気になっていたのだが、その子孫だろう。裏の小平用水のささやかな水と緑が、その生存を保障しているのか。侶れあいには気味悪がるが、蛇は吉兆という。蛇も共に生きていける都会の環境を、未永く維持していけたらと思う。

大腸がん a「余命19ヶ月」と b(治癒の見込みなし)5年経過・完治

ノーベル物理学賞に一番近いといわれた物理学者の戸塚洋二先生と、評論家の立花隆さんの対談「がん宣告『余命十九ヶ月』の記録」を読もうと珍しく、文芸春秋8月号を買う。手術後5年経過し、完治だといわれても、やはり気になるのだ。お前の癌は癌もどきだと言われながら、毎晩酒を喰らい、時にはガンモドキもツマミにしてしまう。だが、「治癒する見込みなし」と知ってしまった以上、完治だ！奇跡だ！といわれても、いや奇跡だと言われるから尚更、この世に奇跡などあるものか！このまま飲んだくれていたらいつか再発するに違いない！と最新情報につい手が伸びてしまうのか？

治癒する見込みなし(岩波新書「胃がんと大腸がん」)といわれる大腸癌ステージ bで、上行結腸を30センチ切り取り、径5センチの腫瘍とリンパ腺を9箇所切除、3箇所のリンパ腺に癌が転移していた。リンパ節への転移があったが故にステージ bと宣告され、殆ど治癒する見込みなしとされるのに、術後5年経過、完治したといわれる。だが、ステージ a(ということは他器官への転移なし?)で腫瘍の径も3センチとより小さく、軽症と診断された先生が、手術時には手で触れるくらい腫瘍が大きく、下血したりしていたのに、なぜ重症のは何の自覚症状もなかったのか？先生は手術後、肺、骨、脳と癌細胞が転移、最善の手を尽くすも、対談後、発売前に亡くなる。は5年経過時の前回検査の時、脳のCTをしていないし、骨の検査もしたことはないが大丈夫なのか？多少の不安も浮かぶ。

癌と宣告され、余命19ヶ月と宣告されてからも癌にかかりっきりになる、癌と闘うことが生活になるのではなく、がん「馴れ合い」ながら、残された時間を如何に有意義に使うか？社会に貢献するか？できるだけ日常生活に近い形で、ある程度酒もたしなむという点で戸塚先生には大いに共感する。だが、同じ抗がん剤の5FUを使いながら、先生はき

つい副作用に苦しんだのに、副作用らしい副作用のなかった。術後、先生は腸閉塞に随分苦しんだのに、一切ない。随分個体差があり、だから先生は癌治療とがん患者のデータベース化を！と言われるが、医療の側はどう応えるのか？

アマダイ通信NO.69

(Tile fish network letter)

08年金木犀咲く

知人・友人各位

「通信」に癌のこと書かなくなれば完治だよ！（再見！）

河野信博三楽病院名誉院長（S30年入寮）のお言葉ですが、これで正真正銘の完治？